

平成 2 0 事業年度業務実績報告書添付資料

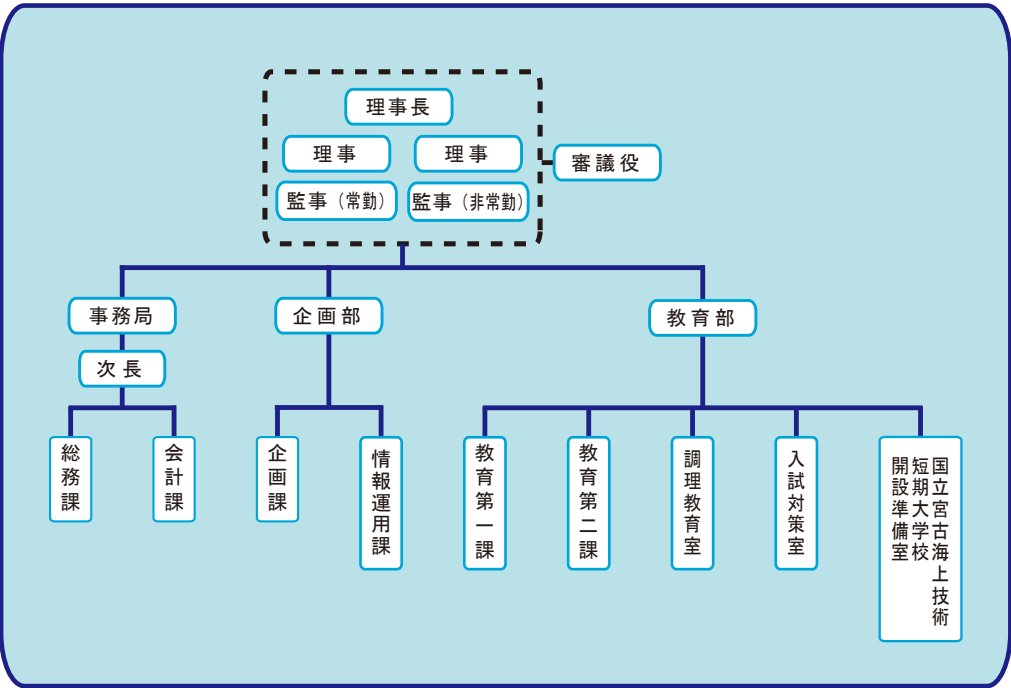
独立行政法人海技教育機構

添付資料一覧

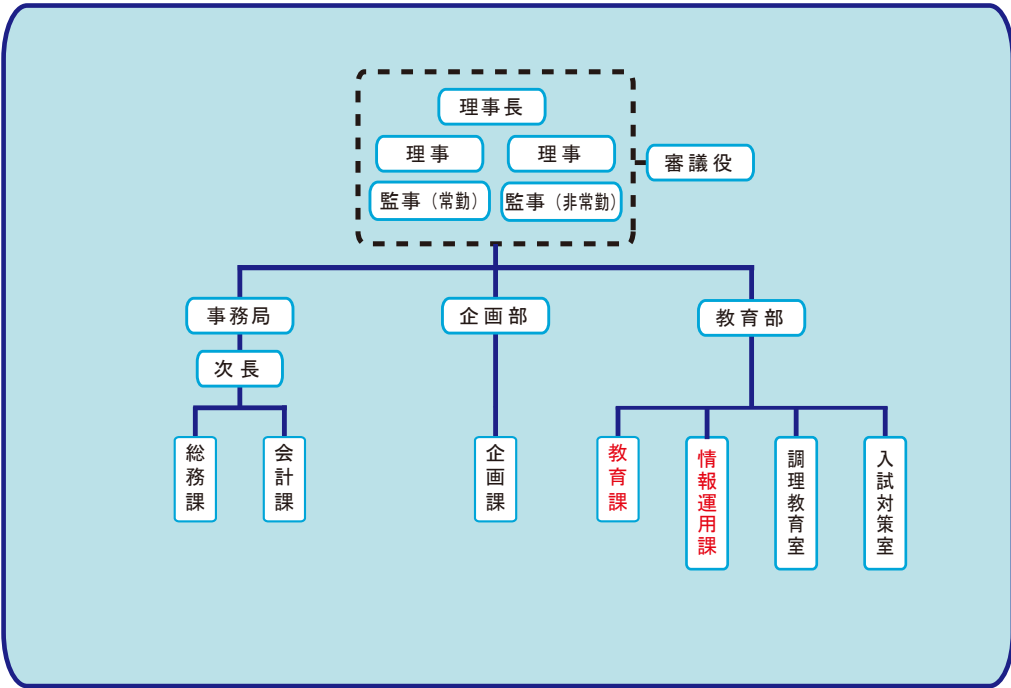
- 資料 1 : 独立行政法人海技教育機構組織改編図
- 資料 2 : 海技教育機構運営改革懇談会プレス発表用
- 資料 3 : 本科、専修科応募・入学状況
- 資料 4 : 本科、専修科及び海上技術コースの在籍者数
- 資料 5 : 就労船員等を対象とする資格教育入学者数及び卒業者数
- 資料 6 : 教科書改訂資料
- 資料 7 : 求人数及び就職者数の推移
- 資料 8 : 平成20年度 関係教育機関及び海運業界との意見交換会開催実績
- 資料 9 : 平成20年度 研修実績
- 資料10 : 平成20年度 内部評価資料
- 資料11 : 授業評価アンケート報告書
- 資料12 : 保護者アンケート報告書
- 資料13 : 広報活動資料
- 資料14 : 平成20年度 研究分野別一覧表
- 資料15 : 平成19年度 研究報告書
- 資料16 : 平成20年度 専門分野委員派遣実績
- 資料17 : 平成20年度 発表論文一覧表
- 資料18 : 監査報告書
- 資料19 : スクールレビュー実施報告書（抜粋）
- 資料20 : 登録関係実施調査指摘事項改善報告書（抜粋）

独立行政法人海技教育機構組織改編図

本部（旧）



本部（新）



資料 2

海技教育機構運営改革懇談会報告について

平成21年4月7日

問い合わせ先

独立行政法人海技教育機構 加藤、細田

054-334-0970

海技教育機構運営改革懇談会について

船員教育分野においては、船員の育成確保に関する目的や方針が明確化されてきております。

こうした中で海技教育機構においては、今後の機構運営の基本的方向性を明らかにするため、平成21年1月から3月にかけて外部有識者、内航海運事業者等関係者を委員（別紙のとおり）とする海技教育機構運営改革懇談会を計4回にわたって開催しました。

懇談会では、各委員の意見交換を通じて、「海技教育機構運営改革懇談会報告について」を取りまとめたところです（概要は下記のとおり）。

今後の機構運営の基本的方向性（概要）

1．教育サービスの向上、教育の魅力化

- (1) 海上技術短期大学校の機能の拡充を図るため、新たに船員実務教育を段階的に導入し、利用者の利便向上を図る。また、教育効果の高いシミュレータの導入、活用を図りつつ、例えば水先人養成課程の新たな設置を積極的に検討する。
- (2) 「教育力」の強化を図るため、教員の組織内人事交流の推進と新たな内部研修体制の整備、及び船社との人事交流の一層の活性化を図る。
- (3) 教育の新たな方策として、通信教育システムを構築し、学生募集の増加につなげるとともに、将来的には、船員実務教育への活用を図る。また、寮の運営体制について、専従の舎監の導入を検討する等、寮教育の積極的な活用を図る。

2．安定的かつ効率的な運営

- (1) 募集活動の強化を図るため、新たに募集専用ホームページの整備を図るほか、専従者の配置の検討等により、安定的な応募者確保に努める。さらに、産学官の一層の連携を図り、内航海運への安定的な人材供給を推進する。
- (2) 業務運営の効率化のため、本部機能の強化による業務の一層の集約化を進めるとともに、海運業界の訓練ニーズを適切に踏まえた受益者負担の拡大も視野に入れつつ、自己収入の確保に努める。

なお、懇談会の開催状況、取りまとめの報告書等詳しい内容は、当機構のホームページ（URL:<http://www.mtea.ac.jp/>）でご覧いただけます。

海技教育機構運営改革懇談会委員名簿 (印は座長)

廻 洋子	淑徳大学教授・運輸審議会委員
今井 常夫	海洋プロデューサー
小比加恒久	全国海運組合連合会会長
内藤 吉起	全国内航タンカー海運組合連合会副会長
奥村 恭史	全日本内航船主海運組合監事
影山 幹雄	日本内航海運組合総連合会理事長
半田 収	社団法人日本船主協会常務理事
本田 隆文	社団法人日本旅客船協会理事長
宇多 一二	財団法人海技教育財団理事長
磯田壮一郎	財団法人海技振興センター理事長
楳葉 伸一	国土交通省海事局海技課長
金田 章治	国土交通省海事局海技課船員教育室長
小堀 欣平	独立行政法人海技教育機構理事長
藤井 照久	独立行政法人海技教育機構理事
伊原 厚司	独立行政法人海技教育機構理事

資料 3

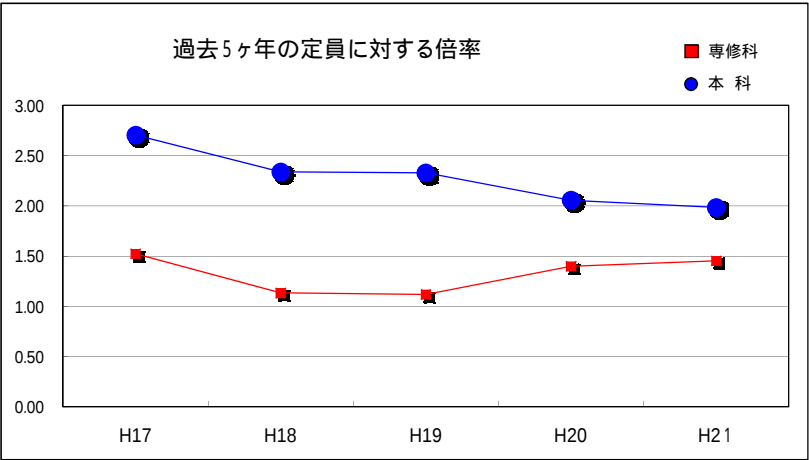
本科、専修科の応募・入学状況
(平成17年度～平成21年度)

本科

学校	小樽				宮古				館山				唐津				口之津				合計				
養成 定員	30				40				40				40				30				220				
年度	募集 人員	応募	入学	倍率	募集 人員	応募	入学	倍率	募集 人員	応募	入学	倍率	募集 人員	応募	入学	倍率	募集 人員	応募	入学	倍率	募集 人員	応募	入学	倍率	
H17	30	80	30	2.67	40	101	47	2.53	40	100	45	2.50	40	122	41	3.05	30	84	36	2.80	180	487	199	2.71	
H18		66	33	2.20		82	35	2.05		87	44	2.18		125	43	3.13		61	35	2.03		421	190	2.34	
H19		52	35	1.73	0					67	41	1.68		126	48	3.15		30	81	36	2.70	140	326	160	2.33
H20		52	34	1.73						78	45	1.95		83	41	2.08		75	33	2.50	288		153	2.06	
H21		53	34	1.77						74	42	1.85		85	46	2.13		66	33	2.20	278		155	1.99	
小計		303	166			183	82			406	217			541	219			367	173			1800	857		

専修科

学校	宮古				清水				波方				計			
養成 定員	H20・40				～H16・80 H17・110				～H16・80 H17・90				～H16・160 H17・200			
年度	募集 人員	応募	入学	倍率	募集 人員	応募	入学	倍率	募集 人員	応募	入学	倍率	募集 人員	応募	入学	倍率
H17	40			0.98	110	149	103	1.35	90	156	87	1.73	200	305	190	1.53
H18						117	92	1.06		110	83	1.22		227	175	1.14
H19						134	107	1.22		90	69	1.00		224	176	1.12
H20						153	108	1.39		144	91	1.60		336	199	1.40
H21						187	115	1.70		107	86	1.19		349	250	1.45
小計		94	84			740	525			607	416			1441	990	



入学定員及び応募者数には乗船実習科並びにインターンシップコースは含まない

乗船実習科の人数は、乗船実習科に進学者の数

資料 4

本科、専修科及び海上技術コースの在籍者数

学校別				
海上技術学校	学校名	学年	定員	在籍者数
	小樽校	1年	30	34
		2年	30	33
		3年	30	31
	宮古校	1年		
		2年		
		3年	40	28
	館山校	1年	40	45
		2年	40	39
		3年	40	41
	唐津校	1年	40	41
		2年	40	48
		3年	40	38
	口之津校	1年	30	33
		2年	30	33
		3年	30	33
	合計		460	477

学年別		
学年	定員	在籍者数
1年	140	153
2年	180	153
3年	180	171

1

学校別				
海上技術(専修科)大学校	学校名	学年	定員	在籍者数
	宮古校	1年	40	35
	清水校	1年	110	110
		2年	110	101
	波方校	1年	90	93
		2年	90	62
	合計		400	401

学年別		
学年	定員	在籍者数
1年	240	238
2年	200	163

コース別				
海上技術コース	学校名	学年	定員	在籍者数
	航海	1年	10	10
		2年	10	12
	機関	1年	10	9
		2年	10	8
	航海専修	1年	5	4
		2年	5	5
	機関専修	1年	5	3
		2年	5	3
	合計		60	54

学年別		
学年	定員	在籍者数
1年	30	26
2年	20	28

宮古校は、専修科校への移行のため18年度より募集停止

資料 5

就労船員等を対象とする資格教育入学者数及び卒業生数

区 分 課 程		平成17年度		
		定 募 員 集	入 学 者	卒 業 者
海 技 士 科	三級海技士専攻科（航海）	10	1	-
	三級海技士専攻科（機関）		0	-
	小 計	10	1	-
	三級海技士航海科	100	13	12
	三級海技士機関科		6	6
	四級海技士航海科第一		15	15
	四級海技士機関科第一		4	4
	四級海技士航海科第二		6	6
	四級海技士機関科第二		7	7
	小 計	100	51	50
講 習 科	航海科五級海技士課程	60	24	23
	機関科五級海技士課程		18	18
	小 計	60	42	41
合 計		170	94	91

区 分 課 程		平成18年度			平成19年度			平成20年度		
		定 募 員 集	入 学 者	卒 業 者	定 募 員 集	入 学 者	卒 業 者	定 募 員 集	入 学 者	卒 業 者
海 技 士 教 育 科	海上技術コース（航海専攻）	10	2		10	3	1	10	4	2
	海上技術コース（機関専攻）		1	-		2	-		3	1
	小 計	10	3	-	10	5	1	10	7	3
	海技士コース（三級航海）	100	9	10	100	6	6	100	9	9
	海技士コース（三級機関）		8	8		4	4		1	1
	海技士コース（四級航海）		19	19		18	18		13	13
	海技士コース（四級機関）		4	4		9	8		13	13
	海技士コース（五級航海）		14	14		8	8		12	12
	海技士コース（五級機関）		12	12		8	8		5	5
	海技士コース（六級航海）		-	-		40	39		49	48
	小 計	100	66	67	100	93	91	100	102	101
	合 計	110	69	67	110	98	92	110	109	104

六級海技士（航海）の取得を目的とするコースは、第一種船舶職員養成施設を記載している。

資料 6

教科書改訂資料

19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
航法 清水	海洋気象 口之津	航法 清水	航法 清水	海洋気象 口之津
航海計器 唐津	機械工作 口之津	航海計器 唐津	航海計器 唐津	機械工作 口之津
運用 小樽	航海実技 館山	運用 小樽	運用 小樽	航海実技 館山
海事法規図集 館山	総合訓練・救命 波方	運用 小樽	海事法規図集 館山	総合訓練・救命 波方
海運実務 清水	総合訓練・消火 波方	海事法規 館山	海運実務 清水	総合訓練・消火 波方
海事英語 宮古	海上実習 テーマ集 宮古	情報技術 唐津	海事英語 宮古	海上実習 テーマ集 宮古
船用機関 波方		機関実技 演習ノート 館山	船用機関 波方	
船用機関 波方			船用機関 波方	
8種	6種	7種	8種	6種

資料 7

求人数及び就職者数の推移

1. 求人数の推移（＊4月1日付け求人・就職状況調査による）

	海上	陸上	合計
17年度	591	69	660
18年度	988	85	1,073
19年度	1,184	184	1,368
20年度	962	164	1,126

2. 就職者数の推移

	卒業者数	就職希望者数	就職者数			就職率	
			海上	陸上	合計	海上就職率	合計就職率
17年度	360	300	265	23	288	88.3%	96.0%
18年度	384	332	296	21	317	89.2%	95.5%
19年度	352	307	289	14	303	94.1%	98.7%
20年度	365	326	310	11	321	95.1%	98.5%

海上就職率 = 海上就職者数 ÷ 就職希望者数
 合計就職率 = 合計就職者数 ÷ 就職希望者数

＊いずれの表も、司ちゅう・事務科を除く

資料 8

平成19年度 関係教育機関及び海運業界との意見交換会開催実績

番号	形態	対象機関	開催日	開催場所	出席者		議題等
					海技教育機構	対象者等	
1	意見交換	北海道運輸局海事振興部船員労政課	H20.4.3	国立小樽海上技術学校	校長、教頭、指導課長	船員労政課長他1名	・就職情報、海へのチャレンジフェア日程、実施内容等
2	意見交換	佐伯海事地域人材確保連携協議会	H20.4.15	大分県佐伯市	教務課長	大分県海運組合代表者23名	・船員対策に関する情報、意見交換
3	意見交換	九州海事産業次世代人材育成推進協議会	H20.4.17	福岡市	教務課長(唐津校、口之津校)	九州旅客船協会専務理事他12名	・船員対策に関する情報、意見交換
4	意見交換	平成20年度佐伯海事地域人材確保連携協議会定期総会	H20.5.26	大分県佐伯市	校長	大分県海運組合代表者23名	・船員対策に関する情報、意見交換
5	意見交換	第一管区海上保安本部	H20.5.28	国立小樽海上技術学校	指導課長	第一人事係長	・就職状況、保安学校募集について
6	意見交換	NPO法人セーラ	H20.6.25	国立館山海上技術学校	校長、教頭、教務課長	事務局2名	・内航海運業界の現況等に関する懇談
7	意見交換	第47回九州地区船員対策連絡協議会 第46回九州地方海運	H20.6.26	福岡市	指導課長(唐津校) 教頭(口之津)	九州地方海運組合連合会会長他22名	・船員対策に関する情報、意見交換
8	意見交換	九州地区船員対策連絡協議会	H20.6.26	福岡市	指導課長	九州地方海運組合連合会会長他22名	・水産系高校と内航海運業界との人材確保・育成に関する懇談
9	意見交換	中部地方船員対策連絡協議会	H20.7.15	国立清水海上技術大学校	教頭、学生課長	中部地方船員対策連絡協議会会長他8名	・船員対策に関する情報、意見交換
10	意見交換	8社連絡網連絡会	H20.7.18	海技大学校	理事、企画部長、企画課長、校長他2名	新日本石油タンカー(株)他6社、12名	・海技大学校報告、各社報告、各社の意見・要望について
11	意見交換	関東地方船員対策協議会、全国内航タンカー海運組合	H20.7.26	国立館山海上技術学校	校長、教頭、全職員	理事長他5名	・内航船の実情に関する懇談
12	連絡会議	航海訓練所との連絡会議	H20.7.30	海技教育機構	教育部長、企画部長他5名	教育部長、教務課長、教務担当	・練習船における実習生の指導について
13	意見交換	第1回海事教育機関との連絡会	H20.8.7	日本船主協会	教育部長、情報運用課長、海技大学校長	日本船主協会副会長他21名	・海事教育機関との連携強化、支援の強化による船員・海技者の確保について
14	意見交換	香川県海運組合	H20.9.3	国立波方海上技術短期大学校	校長、教頭、教務課長、学生課長	理事長他役員5名	・内航海運の現況、海運産業を担う人材の確保・育成について
15	意見交換	日本内航海運組合総連合会	H20.9.12	国立宮古海上技術短期大学校	校長、教頭	日本内航海運組合総連合会第一事業部担当部長	・海運界の現状、船員教育のあり方について
16	意見交換	内航海運フォーラムin福岡	H20.10.27	福岡市	指導課長	国土交通省海事局長他3名	・船員対策に関する情報、意見交換
17	意見交換	全国内航タンカー海運組合	H20.10.29	国立清水海上技術大学校	校長、教頭、学生課長	全国内航タンカー組合常務理事他5名	・学生に対する内航タンカー業界説明及び情報、意見交換
18	意見交換	九州海事産業次世代人材育成推進協議会第3回幹事会	H20.11.5	福岡市	教務課長(唐津校、口之津校)	九州旅客船協会専務理事他14名	・船員対策に関する情報、意見交換
19	意見交換	内航大型船舶送海運組合	H20.11.6	国立唐津海上技術学校	校長、教頭、教務課長、指導課長	近海郵船物流定航部長他20名	・船員対策に関する情報、意見交換
20	意見交換	全国内航タンカー海運組合西部支部	H20.11.11	国立唐津海上技術学校	校長、指導課長	日之出海運専務取締役他2名	・船員対策に関する情報、意見交換
21	意見交換	九州運輸局との内航海運行政に関する懇談会	H20.11.18	国立唐津海上技術学校	教頭、庶務課長	九州運輸局海事振興部貨物課長他5名	・内航海運行政に関する意見交換
22	意見交換	関東地方船員対策協議会	H20.11.26	国立館山海上技術学校	校長、教頭、指導課長	理事長他5名	・船員船員の需給に関する懇談
23	意見交換	四国地方船員対策連絡協議会	H20.12.8	高松市	学生課長	四国地方船員対策連絡協議会会長他11名	・内航海運の現状について ・船員就職フェアについて ・学校現状説明

24	意見交換	8社連絡網連絡会	H20.12.19	新日本石油タンカー(株)	理事、企画部長、航海科長他2名	新日本石油タンカー(株)他7社、19名	・海技大学校報告、各社報告、各社の意見・要望について
25	連絡会議	航海訓練所との連絡会議	H20.12.19	航海訓練所	航海科長、機関科長、学務課長	教育部長、教務課長他3名	・乗船実習の円滑な実施について
26	意見交換	海技教育機構運営改革懇談会	H21.1.15	東京(海事センタービル)	理事長他5名	運営改革懇談会委員10名	・海技教育機構の現状と課題について ・今後の進め方について
27	意見交換	海技教育機構運営改革懇談会	H21.2.2	東京(海事センタービル)	理事長他6名	運営改革懇談会委員11名	・募集戦略の見直しについて ・教育体制の見直しについて
28	意見交換	第2回九州海事産業次世代人材育成推進協議会	H21.2.4	福岡市	校長、教務課長(唐津校、口之津校)	九州旅客船協会専務理事他26名	・船員対策に関する情報、意見交換
29	意見交換	全校内航タンカー海運組合	H21.2.16	国立宮古海上技術短期大学校	校長、教頭	全国内航タンカー組合工務部長他3名	・海運界の現状、船員教育のあり方について
30	意見交換	第2回内航船員教育連絡会議	H21.2.18	海技教育財団	教育部長	内航船社、関係団体等16名	・船員教育機関における教育訓練の現状について
31	意見交換	海技教育機構運営改革懇談会	H21.2.26	東京(海事センタービル)	理事長他6名	運営改革懇談会委員11名	・財務の見直しについて ・事業の見直しについて
32	意見交換	愛媛地方内航船員対策連絡協議会	H21.3.3	国立波方海上技術短期大学校	教頭、教務課長、学生課長、学生10名	愛媛地方内航船員対策連絡協議会会長他12名	・内航海運の現況、卒業予定者の針路状況について
33	意見交換	日本内航海運組合総連合会	H21.3.5	日本内航海運組合総連合会	理事、館山校長、小樽校長、清水校長	日本内航海運組合総連合会船員対策委員会委員他5名	・内航船員育成に係る懇談
34	意見交換	ユーザーモニター会議	H21.3.13	海技大学校	理事、企画部長、校長他3名	ユーザーモニター10名	・機構・海技大学校の現状報告、ユーザーモニターからの意見・要望について
35	意見交換	海技教育機構運営改革懇談会	H21.3.19	東京(海事センタービル)	理事長他5名	運営改革懇談会委員10名	・運営改革懇談会のまとめ
36	連絡会議	航海訓練所との連絡会議	H21.3.19	海技教育機構	教育課長、教育課主幹	教育課長、教務担当	・乗船中の生活指導について
37	意見交換	第2回海事教育機関との連絡会	H21.3.27	日本船主協会	教育部長	日本船主協会副会長他23名	・海事教育機関との連携強化、支援の強化による船員・海技者の確保について

平成20年度 研修実績

教員研修実績

海上技術学校等教員対象

1. 内航船乗船研修 . . . 3名
研修内容：内航船の運航及び労務関係の実態を経験し、機構の船員教育及び生徒・学生の就職指導にその経験を反映させる。
(1) 期 間：平成20年 7月31日～8月 3日(5日間)
学校名：国立清水海上技術短期大学校
会社名：浪速タンカー株式会社
船 名：第7浪速丸
(2) 期 間：平成20年 8月 8日～ 9日(2日間)
学校名：国立波方海上技術短期大学校
会社名：第一船舶株式会社
船 名：鶴祥丸
(3) 期 間：平成20年 8月 9日～13日(5日間)
学校名：国立唐津海上技術学校
会社名：宇部興産海運株式会社
船 名：興春丸
2. 海技丸体験乗船 . . . 1名
研修内容：海上交通の難所である、瀬戸内の航海をとおして、航海技術及び航路に対する知識を深めるとともに、学生の実習状況等も含めて、結果を授業に反映させる。
(1) 期 間：平成20年 8月18日～ 8月22日(5日間)
学校名：国立波方海上技術短期大学校 1名
(国立波方海上技術短期大学校 学生8名乗船)
3. ディーゼル原動機開放復旧作業研修 . . . 6名
研修内容：内燃機関の開放、計測、整備、復旧に関する実機による研修を実施することにより、機関科教員の資質の向上を図るとともに、同様の実習を取り入れ生徒・学生に対する実習授業の充実を図る。
期 間：平成20年11月11日～12日(2日間)
開催場所：国立波方海上技術短期大学校
4. 普通科教員研修 . . . 9名
研修内容：研究授業や授業検討会を通して普通科教員の資質を向上させ、教授法や教材等に関する情報を持ち寄り、授業運営について研究を行うとともに、指導力のスキルアップを図る。
期 間：平成21年 2月18日～19日(2日間)
開催場所：国立唐津海上技術学校

5. ミドルステップ研修 . . . 10名
研修内容：採用後5～10年程度の中堅教員を対象に、指導技術、危機管理、文書管理、法令遵守、その他教員業務全般についての研修を行うことにより、教員によつての総合的な資質を磨き、もつて業務運営の改善に資する。
期 間：平成20年8月5日～7日（3日間）
開催場所：独立行政法人海技教育機構清水本部

海技大学校教員対象

1. 救急救命講習 . . . 1名
研修内容：消防署における救急救命講習を受講し、座学後、人工呼吸、蘇生法の実習を行った。
開 催 日：平成20年4月16日
開催場所：西宮消防署
2. ペイント及び塗装研修 . . . 1名
研修内容：塗料の種類及び塗装の方法について調査を行った。特に、最新の塗料及びその塗装方法について研修を受けた。
開 催 日：平成20年4月21日
開催場所：中国塗料（株）大竹研究センター
3. コーンズ商会 ADMIRALITY ENCセミナー . . . 4名
研修内容：現在の電子海図（ENC）及び電子海図表示情報システム（ECDIS）はラスターチャートが主流であるが、UK Hydrographic Office で開発した Vector Chartでは、100%世界を網羅することが可能になる。このシステムの内容、サービスの概要について、日本代理店であるコーンズの説明が行われ、システムのデモンストレーションに参加した。
開 催 日：平成20年4月15日
開催場所：グランキューブ大阪
4. こませ網漁船体験乗船研修 . . . 3名
研修内容：こませ網漁船での漁の見学及び、漁船から見る航路の閉塞状況及び通航する巨大船の航法を見学し、こませ網漁業者から問題点の聞き取り調査を行った。
開 催 日：平成20年4月22日
開催場所：高松港 - 備讃瀬戸海域
5. 第117回船長実務講座 . . . 3名
研修内容：東京海洋大学矢吹教授より、現在の船舶運航における問題点の紹介とその解決策の提示があり、e-Navigationの概念及びIMOにおける決議と世界的な動きについて説明を受けた。その後、具体的な戦略として、AISの利用・INT-NAVの概念、小型船向け見張り支援機能・船同士の意思疎通支援機能といった、e-Navigationの具体的研究例の紹介があった。

開 催 日：平成 2 1 年 1 月 1 6 日

開催場所：郵船ビル 4 階会議室（神戸）

6 . 第 5 1 回船舶気象懇談会 . . . 3 名

研修内容：神戸海洋気象台の海上気象課長から、台風の予報についての最新技術の紹介及び、予報精度の向上に関する講演があった。

開 催 日：平成 2 1 年 1 月 3 0 日

開催場所：郵船ビル 4 階会議室（神戸）

7 . フェリー・高速船乗船研修 . . . 8 名

研修内容：ジェットfoil等の高速船やフェリーの船橋における運航実態を見学し、その知見を今後の教育・訓練やフェリー各社からの依頼のある乗船研修に活用する。

開 催 日：平成 2 1 年 2 月 2 6 日～3 月 2 4 日までの間で 5 回実施

開催場所：隠岐汽船（株）、佐渡汽船（株）、JR九州高速船（株）、マルエーフェリー（株）

8 . 粉塵作業に関する特別教育研修 . . . 1 名

研修内容：粉塵やヒューマ（溶接時に発生する煙）などの発生する場所で、作業を行う場合の安全に関する教育を受講した。

開 催 日：平成 2 0 年 5 月 1 9 日

開催場所：コベルコ教習所 明石教育センター

9 . マリンエンジニアリング学会主催の見学会 . . . 1 名

研修内容：現在の大型鋳造品、DU大型ディーゼルエンジン、船舶ブロック製造の工程などの見学を行い、これらの最新技術の動向などの説明を受けた。

開 催 日：平成 2 0 年 4 月 1 1 日

開催場所：株式会社IHI 相生事業所

10 . タービンプラントシミュレータを用いたチーム訓練の見学 . . . 1 名

研修内容：日本郵船において実施している上級機関士向けの「LNG船タービンプラント研修“緊急対応コース”」に立ち会うことで、海技大学校における機関室シミュレータ訓練やEngin-room Team Management訓練手法のための今後の参考資料とすることが目的である。

開 催 日：平成 2 0 年 7 月 1 日～7 月 4 日

開催場所：日本郵船（株）船員研修所

11 . 新造セメント運搬船の見学 . . . 3 名

研修内容：最新のセメント運搬船のアンチローリングタンク、カーゴホールド内部、ホールドスペース、機関システム及び荷役システムを見学した後、概略説明を受けた。

開 催 日：平成 2 0 年 8 月 5 日

開催場所：住友大阪セメント赤穂工場内専用岸壁

12. 高速船乗船研修 . . . 1 名

研修内容：JR九州高速船（株）が保有するジェットfoilに乗船し、船内見学を行い、職場環境や新人船員採用状況等現状把握を行った。

開 催 日：平成 2 1 年 3 月 2 5 日～ 2 6 日

開催場所：JR九州高速船（株）ジェットfoil

事務員研修実績

内部研修

1. 平成20年度 独立行政法人海技教育機構 新管理職者研修 . . . 7名
研修内容：管理職として必要な実務及び管理能力の取得を図る。
期 間：平成21年3月16日(月)～3月17日(火)
開催場所：独立行政法人海技教育機構 清水本部

外部研修

1. 平成20年度人事担当課長講習会 . . . 1名
研修内容：人事管理諸問題について
期 間：平成20年4月18日
開催場所：国土交通大学校 柏研修センター
2. 平成20年度総合課程 管区機関課長級研修 . . . 1名
研修内容：人事管理能力及び社会の変化に対応する識見の向上を図る。
期 間：平成20年4月21日～25日(5日間)
開催場所：国土交通大学校 柏研修センター
3. 平成20年度総合課程 初任係長(本省)研修 . . . 2名
研修内容：初任管理者の役割を理解させ、説得・交渉能力の充実を図る。
期 間：平成20年6月24日～27日(4日間)
開催場所：国土交通大学校 柏研修センター
4. 平成20年度総合課程 中堅係長(期)研修 . . . 1名
研修内容：説得力、交渉力の向上及び国土交通行政の推進に必要な知識の修得を図る。
期 間：平成20年6月30日～7月4日(5日間)
開催場所：国土交通大学校 柏研修センター
5. 平成20年度 行政広報・情報公開研修 . . . 1名
研修内容：広報体制の強化を図るとともに、情報公開法に基づく開示請求を円滑に処理できるよう、担当職員の業務の正確性並びに効率化の向上を図る。
期 間：平成20年10月6日～10日(5日間)
開催場所：国土交通大学校 柏研修センタ
6. 平成20年度総合課程 簿記研修 . . . 1名
研修内容：簿記の基礎的知識を習得させ、事業の分析、指導、監督等の事務能率の向上を図る。
期 間：平成20年11月6日～23日(18日間)
開催場所：国土交通大学校 柏研修センター

7. 第27回政府出資法人等内部監査業務講習会 . . . 1名
研修内容：会計監査の基本理念、内部監査業務を遂行する上で必要な知識を修得させる。
期 間：平成20年11月10日～14日（5日間）
開催場所：会計検査院 安中研修所
8. 中部地区セクシュアル・ハラスメント防止研修 . . . 1名
内容期間：セクシュアル・ハラスメントの防止及び対応等に当たるリーダーを養成し、行政機関における防止意識の高揚を図る。
期 間：平成20年12月2日～3日（2日間）
開催場所：人事院中部事務局（名古屋合同庁舎）
9. ホームページに関する研修 . . . 12名
研修内容：ホームページ作成の手順を理解するとともに、作成ソフト（ホームページビルダー）の操作を理解し、日々の制作作業に活かすスキルの習得することを目的とする。
期 間：平成21年1月21日～22日（2日間）
開催場所：国立清水海上技術短期大学校

国立小樽海上技術学校
平成20年度業務実績評価調書

平成21年4月
海技教育機構内部評価委員会

平成 2 0 年度業務実績評価：国立小樽海上技術学校

業 務 の 実 績 評 価

評 価 項 目	評 価	評 定 理 由	意 見 等
1) 目標を達成するための取り組み及び 目標の達成状況を評価するもの			
海技士国家試験の合格率 (海上技術学校等)(海技大学校)	3	昨年度実績に比較して、合格率は向上しているものの、受験者 17 名の内、4 名の不合格者が出ている。	
海事関連企業への就職率 (海上技術学校等)(海技大学校)	5	卒業生 29 名の内、22 名が就職を希望し全員が海事関連企業に就職している。また、生徒に対し、海上就職への意欲を向上させるため、種々な取り組みを実施している。	
研究の回数及び内容 (海技大学校)	-		
学生・生徒・受講生の募集 (海上技術学校等)(海技大学校)	4	学校訪問数の増加、情報誌やタウンガイド及び地下鉄への広告の掲載など工夫を凝らした募集活動により、倍率 1.8 倍の応募者があった。	
教育の達成状況(成業率、資格取得状況) (海上技術学校等)(海技大学校)	4	カウンセリングの充実等指導体制を強化した結果、退学者が少なく、成業率が高い。また、危険物取扱者(乙種)等、資格取得状況も良好であった。	
実務教育(開催回数及び受講人数) (海技大学校)	-		
海事思想の普及 (海上技術学校等)(海技大学校)	3	マリンスフェスタへの参加等、種々な機会を捉えて海事思想の普及に取り組んでいる。	

評 価 項 目	評 価	評 定 理 由	意 見 等
(2) 計画の達成に向けた課程及び 取り組み方を評価するもの			
授業評価アンケート等の自己評価 (海上技術学校等)(海技大学校)	3	授業アンケート、研究授業後の授業研究会、さら には保護者アンケートの実施など工夫が見られる。	
各学校で実施する研修 (海上技術学校等)(海技大学校)	3	校内練習船の操船研修、機関取扱研修を独自に実 施し、安全運航を確保するとともに、他の技能取得 に努めている。	
意見交換会の実施 (海上技術学校等)(海技大学校)	3	計画に沿って、実施している。	
保護者会の実施 (海上技術学校)	3	年度計画に沿って保護者会を開催し、保護者と良 い関係を保つよう努力している。	
自己収入の確保 (海技大学校)	-		
(3) その他			
自主改善努力 (海上技術学校等)(海技大学校)	B	学年共通実力試験、校内練習船の長時間航海など が自主改善努力として認められる。	

< 記入要領 > ・項目ごとの「評定結果」の欄に、以下の段階的評定を記入するとともに、その右の「評定理由」欄に理由を記入する。

5 点：中期目標の達成に向けて特筆すべき優れた実施状況にあると認められる。

4 点：中期目標の達成に向けて優れた実施状況にあると認められる。

3 点：中期目標の達成に向けて着実な実施状況にあると認められる。

2 点：中期目標の達成に向けて概ね着実な実施状況にあると認められる。

1 点：中期目標の達成に向けて着実な実施状況にあると認められない。

・ 5 点をつけた項目には、特筆すべきと判断した理由として、他の項目における実績との違いを「評定理由」欄に明確に記述するものとする。

・ 必要な場合には、右欄に意見を記入する。

・ 自主改善努力の評価は、下の 3 段階の評価とする。

A：とくに優れた実践事例として認められる。

B：優れた実践事例として認められる。

C：優れた実践事例として認められない。

平成 2 0 年度業務実績評価調書：国立小樽海上技術学校

総合的な評価

業務運営評価（実施状況全体）

極めて順調	順 調	概ね順調	要努力	評価理由
	○			

< 記入要領 >

- ・ 個別項目の認定結果をもとに、以下の判断基準により、それぞれの欄に○を記入する。
 - A : (各項目の合計点数) / (項目数に 3 を乗じた数) が 1 2 0 % 以上である場合には、「極めて順調」とする。
 - B : (各項目の合計点数) / (項目数に 3 を乗じた数) が 1 0 0 % 以上 1 2 0 % 未満である場合には、「順調」とする。
 - C : (各項目の合計点数) / (項目数に 3 を乗じた数) が 8 0 % 以上 1 0 0 % 未満である場合には、「概ね順調」とする。
 - D : (各項目の合計点数) / (項目数に 3 を乗じた数) が 8 0 % 未満である場合には、「要努力」とする。
- ・ 但し、評価の境界値に近接している場合であって、各学校の業務の実績に鑑みて、上位又は下位のランクに評価を変更すべき特段の事情がある場合には、理由を明記した上で評価委員長の判断でこれを行うことができる。

総 合 評 価

（学校の業務の実績）

教育目標に沿って、各事業が確実に実施されている。

（課題・改善点、業務運営に対する意見等）

今後は少子化のなか、大変な困難を伴うことが予想されるが応募者の確保が継続出来るよう教職員一丸となって努力して頂きたい。

（その他推奨事例等）

なし

国立館山海上技術学校
平成 2 0 年度業務実績評価調書

平成 2 1 年 4 月
海技教育機構内部評価委員会

業 務 の 実 績 評 価

評 価 項 目	評 価	評 定 理 由	意 見 等
1) 目標を達成するための取り組み及び 目標の達成状況を評価するもの			
海技士国家試験の合格率 (海上技術学校等)(海技大学校)	4	十分な受験者を確保するとともに、合格率も上昇している。また、校内実力試験、補講、試験会場への教員の派遣等サポートの良さも優れている。	
海事関連企業への就職率 (海上技術学校等)(海技大学校)	4	適切な就職指導が行われ、海事関連企業への就職率も高い。	
研究の回数及び内容 (海技大学校)	-		
学生・生徒・受講生の募集 (海上技術学校等)(海技大学校)	4	体験入学、オープンスクール等を数多く開催し、中学生と保護者への認知を図っている。また、体験入学参加者の応募が7割近い等優れた取り組みをしている。	
教育の達成状況(成業率、資格取得状況) (海上技術学校等)(海技大学校)	3	カウンセラーの活用等の工夫により高い成業率である。また、特殊無線技師免許取得等においては成果を上げている。	
実務教育(開催回数及び受講人数) (海技大学校)	-		
海事思想の普及 (海上技術学校等)(海技大学校)	3	地域貢献の一環とした各種イベントへの積極的参画等、海事思想の普及に努めている。	

評 価 項 目	評 価	評 定 理 由	意 見 等
(2) 計画の達成に向けた課程及び 取り組み方を評価するもの			
授業評価アンケート等の自己評価 (海上技術学校等)(海技大学校)	3	授業アンケートと研究授業、授業研究会を効果的に実施し、授業の改善に努めている。	
各学校で実施する研修 (海上技術学校等)(海技大学校)	3	研修に参加し習得した技能知識を、勉強会の実施により校内で共有し、研修効果の拡大を図っている。	
意見交換会の実施 (海上技術学校等)(海技大学校)	3	地元海運界関係者等との意見交換会を積極的に行っている。	
保護者会の実施 (海上技術学校)	4	保護者会が組織化され、学校と保護者の良好な関係が築かれており、マリンセミナーの開催等活発な活動が実施されている。	
自己収入の確保 (海技大学校)	-		
(3) その他			
自主改善努力 (海上技術学校等)(海技大学校)	B	推薦入学予定者への基礎学力向上のための就学前の学習指導は大変よい試みとして評価できる。	今後、各学校においても取り入れることが望ましい事例である。

< 記入要領 > ・項目ごとの「評定結果」の欄に、以下の段階的評定を記入するとともに、その右の「評定理由」欄に理由を記入する。

5点：中期目標の達成に向けて特筆すべき優れた実施状況にあると認められる。

4点：中期目標の達成に向けて優れた実施状況にあると認められる。

3点：中期目標の達成に向けて着実な実施状況にあると認められる。

2点：中期目標の達成に向けて概ね着実な実施状況にあると認められる。

1点：中期目標の達成に向けて着実な実施状況にあると認められない。

・5点をつけた項目には、特筆すべきと判断した理由として、他の項目における実績との違いを「評定理由」欄に明確に記述するものとする。

・必要な場合には、右欄に意見を記入する。

・自主改善努力の評価は、下の3段階の評価とする。

A：とくに優れた実践事例として認められる。

B：優れた実践事例として認められる。

C：優れた実践事例として認められない。

平成 2 0 年度業務実績評価調書：国立館山海上技術学校

総合的な評価

業務運営評価（実施状況全体）

極めて順調	順 調	概ね順調	要努力	評定理由
	○			

< 記入要領 >

- ・ 個別項目の認定結果をもとに、以下の判断基準により、それぞれの欄に○を記入する。
 - A : (各項目の合計点数) / (項目数に 3 を乗じた数) が 1 2 0 % 以上である場合には、「極めて順調」とする。
 - B : (各項目の合計点数) / (項目数に 3 を乗じた数) が 1 0 0 % 以上 1 2 0 % 未満である場合には、「順調」とする。
 - C : (各項目の合計点数) / (項目数に 3 を乗じた数) が 8 0 % 以上 1 0 0 % 未満である場合には、「概ね順調」とする。
 - D : (各項目の合計点数) / (項目数に 3 を乗じた数) が 8 0 % 未満である場合には、「要努力」とする。
- ・ 但し、評価の境界値に近接している場合であって、各学校の業務の実績に鑑みて、上位又は下位のランクに評価を変更すべき特段の事情がある場合には、理由を明記した上で評価委員長の判断でこれを行うことができる。

総 合 評 価

（学校の業務の実績）

教育目標に沿って、高いレベルの業務が遂行され、良好な結果を得ている。

（課題・改善点、業務運営に対する意見等）

（その他推奨事例等）

推薦入学予定者への基礎学力向上のための就学前の学習指導は、各学校の範となる事例であると認める。

国立唐津海上技術学校
平成 2 0 年度業務実績評価調書

平成 2 1 年 4 月
海技教育機構内部評価委員会

業 務 の 実 績 評 価

評 価 項 目	評 価	評 定 理 由	意 見 等
1) 目標を達成するための取り組み及び 目標の達成状況を評価するもの			
海技士国家試験の合格率 (海上技術学校等)(海技大学校)	5	基礎学力向上のための取り組み等、平素から学力 向上に向けて努力し、100%の合格率は優れた実 績として評価できる。	
海事関連企業への就職率 (海上技術学校等)(海技大学校)	4	生徒に会社訪問を積極的に行わせる等就職意欲の 向上に努め96.6%の高い就職率を達成している。	
研究の回数及び内容 (海技大学校)	-		
学生・生徒・受講生の募集 (海上技術学校等)(海技大学校)	4	学校訪問、雑誌・新聞への広告の掲載等PRの工 夫により、応募倍率を2.08倍確保した。	
教育の達成状況(成業率、資格取得状況) (海上技術学校等)(海技大学校)	4	危険物取扱者(乙種)試験合格者が20名など、 資格取得に積極的に取り組んでいる。	
実務教育(開催回数及び受講人数) (海技大学校)	-		
海事思想の普及 (海上技術学校等)(海技大学校)	3	ヨット競技やトライアスロン大会等への協力等、 地域のイベントに積極的に貢献した。	

評 価 項 目	評 価	評 定 理 由	意 見 等
(2) 計画の達成に向けた課程及び 取り組み方を評価するもの			
授業評価アンケート等の自己評価 (海上技術学校等)(海技大学校)	3	授業研究会等に外部講師を参加させ、そのキャリアを生かしたアドバイスを受ける等、授業改善に生かしている。	
各学校で実施する研修 (海上技術学校等)(海技大学校)	4	地区の研修に積極的に参加するとともに、報告発表会の開催により、研修の知識・技術の共有化を図っている。	
意見交換会の実施 (海上技術学校等)(海技大学校)	3	地区の船員対策協議会をはじめとし、11回の懇談会に出席、積極的に情報交換を実施している。	
保護者会の実施 (海上技術学校)	3	8回の保護者会を実施し、保護者と意思の疎通が図られている。	
自己収入の確保 (海技大学校)	-		
(3) その他			
自主改善努力 (海上技術学校等)(海技大学校)	A	基礎学力の強化、生徒指導の取り組み、教員のカウンセリング研修、地域社会への貢献等、積極的に取り組み成果を上げている。	

< 記入要領 > ・項目ごとの「評定結果」の欄に、以下の段階的評定を記入するとともに、その右の「評定理由」欄に理由を記入する。

5点：中期目標の達成に向けて特筆すべき優れた実施状況にあると認められる。

4点：中期目標の達成に向けて優れた実施状況にあると認められる。

3点：中期目標の達成に向けて着実な実施状況にあると認められる。

2点：中期目標の達成に向けて概ね着実な実施状況にあると認められる。

1点：中期目標の達成に向けて着実な実施状況にあると認められない。

- ・5点をつけた項目には、特筆すべきと判断した理由として、他の項目における実績との違いを「評定理由」欄に明確に記述するものとする。
- ・必要な場合には、右欄に意見を記入する。
- ・自主改善努力の評価は、下の3段階の評価とする。
 - A：とくに優れた実践事例として認められる。
 - B：優れた実践事例として認められる。
 - C：優れた実践事例として認められない。

総合的な評価

業務運営評価（実施状況全体）

極めて順調	順 調	概ね順調	要努力	評価理由
○				

< 記入要領 >

- ・ 個別項目の認定結果をもとに、以下の判断基準により、それぞれの欄に○を記入する。
 - A : (各項目の合計点数) / (項目数に 3 を乗じた数) が 1 2 0 % 以上である場合には、「極めて順調」とする。
 - B : (各項目の合計点数) / (項目数に 3 を乗じた数) が 1 0 0 % 以上 1 2 0 % 未満である場合には、「順調」とする。
 - C : (各項目の合計点数) / (項目数に 3 を乗じた数) が 8 0 % 以上 1 0 0 % 未満である場合には、「概ね順調」とする。
 - D : (各項目の合計点数) / (項目数に 3 を乗じた数) が 8 0 % 未満である場合には、「要努力」とする。
- ・ 但し、評価の境界値に近接している場合であって、各学校の業務の実績に鑑みて、上位又は下位のランクに評価を変更すべき特段の事情がある場合には、理由を明記した上で評価委員長の判断でこれを行うことができる。

総 合 評 価

（学校の業務の実績）

業務の実践全般にわたって、様々な工夫を凝らし全職員一丸となって積極的に取り組み大変良い成果を上げている。

（課題・改善点、業務運営に対する意見等）

少子化が進み、受験者の確保が益々厳しくなると予想されることから口之津校とのさらなる緊密な連携をとりながら、応募者の確保に向けて教職員一丸となって頑張っていたきたい。

（その他推奨事例等）

外部講師の意見を授業研究会等で取り入れ、各教員の授業改善に役立てる試みは推奨事例として認める。

国立口之津海上技術学校
平成 2 0 年度業務実績評価調書

平成 2 1 年 4 月
海技教育機構内部評価委員会

平成 2 0 年度業務実績評価：国立口之津海上技術学校

業 務 の 実 績 評 価

評 価 項 目	評 価	評 定 理 由	意 見 等
1) 目標を達成するための取り組み及び 目標の達成状況を評価するもの			
海技士国家試験の合格率 (海上技術学校等)(海技大学校)	4	練習船の転船時期を含めた 4 回の補講や乗船実習 前の早期取り組みなどの工夫により、95.5%の 合格率を達成した。	
海事関連企業への就職率 (海上技術学校等)(海技大学校)	5	30名定員の学校において、31名の海事関連企 業への就職は大変高く評価できる。	
研究の回数及び内容 (海技大学校)	-		
学生・生徒・受講生の募集 (海上技術学校等)(海技大学校)	4	テレビ広告、フェリーや電車内の広告と多様な取 り組みを実施し、受験倍率 2.2 倍の実績を上げて いる。	
教育の達成状況(成業率、資格取得状況) (海上技術学校等)(海技大学校)	3	生徒会活動の活性化など退学の防止策の充実に努 めている。	
実務教育(開催回数及び受講人数) (海技大学校)	-		
海事思想の普及 (海上技術学校等)(海技大学校)	3	南島原市と協力して実施した「海洋教室」の開催 により、多くの中学生に対して海事思想の普及に努 めている。	

評 価 項 目	評 価	評 定 理 由	意 見 等
(2) 計画の達成に向けた課程及び 取り組み方を評価するもの			
授業評価アンケート等の自己評価 (海上技術学校等)(海技大学校)	3	授業アンケート、研究授業の結果を授業改善に役 立てている。	
各学校で実施する研修 (海上技術学校等)(海技大学校)	3	アーク溶接研修等学校で積極的に研修を企画し、 教員の資格、技術の習得に力を入れている。	
意見交換会の実施 (海上技術学校等)(海技大学校)	3	九州地区船員対策協議会に参加するなど、外部機 関と積極的に意見交換を実施している。	
保護者会の実施 (海上技術学校)	3	学校祭等で活用する等、保護者会活動の充実に取り 組んでいる。	
自己収入の確保 (海技大学校)	-		
(3) その他			
自主改善努力 (海上技術学校等)(海技大学校)	B	生徒会活動を通して、良い環境作りに取り組む手 法は新しい試みとして評価できる。	今後、各学校にお いても取り入れるこ とが望ましい事例で ある。

< 記入要領 > ・項目ごとの「評定結果」の欄に、以下の段階的評定を記入するとともに、その右の「評定理由」欄に理由を記入する。

5 点：中期目標の達成に向けて特筆すべき優れた実施状況にあると認められる。

4 点：中期目標の達成に向けて優れた実施状況にあると認められる。

3 点：中期目標の達成に向けて着実な実施状況にあると認められる。

2 点：中期目標の達成に向けて概ね着実な実施状況にあると認められる。

1 点：中期目標の達成に向けて着実な実施状況にあると認められない。

・ 5 点をつけた項目には、特筆すべきと判断した理由として、他の項目における実績との違いを「評定理由」欄に明確に記述するものとする。

・ 必要な場合には、右欄に意見を記入する。

・ 自主改善努力の評価は、下の 3 段階の評価とする。

A：とくに優れた実践事例として認められる。

B：優れた実践事例として認められる。

C：優れた実践事例として認められない。

平成 2 0 年度業務実績評価調書：国立口之津海上技術学校

総合的な評価

業務運営評価（実施状況全体）

極めて順調	順 調	概ね順調	要努力	評価理由
	○			

< 記入要領 >

- ・ 個別項目の認定結果をもとに、以下の判断基準により、それぞれの欄に○を記入する。
 - A : (各項目の合計点数) / (項目数に 3 を乗じた数) が 1 2 0 % 以上である場合には、「極めて順調」とする。
 - B : (各項目の合計点数) / (項目数に 3 を乗じた数) が 1 0 0 % 以上 1 2 0 % 未満である場合には、「順調」とする。
 - C : (各項目の合計点数) / (項目数に 3 を乗じた数) が 8 0 % 以上 1 0 0 % 未満である場合には、「概ね順調」とする。
 - D : (各項目の合計点数) / (項目数に 3 を乗じた数) が 8 0 % 未満である場合には、「要努力」とする。
- ・ 但し、評価の境界値に近接している場合であって、各学校の業務の実績に鑑みて、上位又は下位のランクに評価を変更すべき特段の事情がある場合には、理由を明記した上で評価委員長の判断でこれを行うことができる。

総 合 評 価

（学校の業務の実績）

国家試験合格に向け、生徒の意欲向上に努めた結果、合格率が昨年に比べて大幅に上昇している。

（課題・改善点、業務運営に対する意見等）

少子化が進み、受験者の確保が益々厳しくなると予想されることから唐津校とのさらなる緊密な連携をとりながら、応募者の確保に向けて教職員一丸となって頑張っていたきたい。

（その他推奨事例等）

生徒会活動を通して、生徒と学校が良い教育環境作りに取り組んでいる。

国立宮古海上技術学校
国立宮古海上技術短期大学校
平成 2 0 年度業務実績評価調書

平成 2 1 年 4 月
海技教育機構内部評価委員会

平成 2 0 年度業務実績評価：国立宮古海上技術学校・国立宮古海上技術短期大学校
業 務 の 実 績 評 価

評 価 項 目	評 価	評 定 理 由	意 見 等
1) 目標を達成するための取り組み及び 目標の達成状況を評価するもの			
海技士国家試験の合格率 (海上技術学校等)(海技大学校)	4	昨年同様、83.3%と高い合格率である。	
海事関連企業への就職率 (海上技術学校等)(海技大学校)	4	適切な就職指導が行われ、海事関連企業への就職率も高い。	
研究の回数及び内容 (海技大学校)	-		
学生・生徒・受講生の募集 (海上技術学校等)(海技大学校)	4	広域な学校訪問の実施に加えて、多種多様な募集活動を実施し、入学定員を確保した。	
教育の達成状況(成業率、資格取得状況) (海上技術学校等)(海技大学校)	3	本科の成業率が低く、また、専修科の4名の退学者は非常に残念である。	
実務教育(開催回数及び受講人数) (海技大学校)	-		
海事思想の普及 (海上技術学校等)(海技大学校)	3	練習船入港時のイベント参加、海フェスタへの協力並びに地域行事への積極的参加等、海事思想の普及に努めている。	

評 価 項 目	評 価	評 定 理 由	意 見 等
(2) 計画の達成に向けた課程及び 取り組み方を評価するもの			
授業評価アンケート等の自己評価 (海上技術学校等)(海技大学校)	3	異なったコースの生徒・学生に対する学習指導、 アンケートの取りまとめは、実施課程や方法も煩雑 であったと推察する。	研修で得た知識・ 技術を校内で共有化 する取り組みが必要 である。
各学校で実施する研修 (海上技術学校等)(海技大学校)	3	新人教員に対する校内研修に取り組むとともに、 外部研修も活用している。	
意見交換会の実施 (海上技術学校等)(海技大学校)	3	海運会社等との意見交換会を実施している。	
保護者会の実施 (海上技術学校)	3	計画通り実施している。	
自己収入の確保 (海技大学校)	-		
(3) その他			
自主改善努力 (海上技術学校等)(海技大学校)	B	基礎学力の不足した学生に対するインターネット を利用した個人指導は新たな取り組みである。	

< 記入要領 > ・項目ごとの「評定結果」の欄に、以下の段階的評定を記入するとともに、その右の「評定理由」欄に理由を記入する。

5 点：中期目標の達成に向けて特筆すべき優れた実施状況にあると認められる。

4 点：中期目標の達成に向けて優れた実施状況にあると認められる。

3 点：中期目標の達成に向けて着実な実施状況にあると認められる。

2 点：中期目標の達成に向けて概ね着実な実施状況にあると認められる。

1 点：中期目標の達成に向けて着実な実施状況にあると認められない。

- ・ 5 点をつけた項目には、特筆すべきと判断した理由として、他の項目における実績との違いを「評定理由」欄に明確に記述するものとする。
- ・ 必要な場合には、右欄に意見を記入する。
- ・ 自主改善努力の評価は、下の 3 段階の評価とする。
 - A：とくに優れた実践事例として認められる。
 - B：優れた実践事例として認められる。
 - C：優れた実践事例として認められない。

平成 2 0 年度業務実績評価調書：国立宮古海上技術学校・国立宮古海上技術短期大学校

総合的な評価

業務運営評価（実施状況全体）

極めて順調	順 調	概ね順調	要努力	評定理由
	○			

< 記入要領 >

- ・個別項目の認定結果をもとに、以下の判断基準により、それぞれの欄に○を記入する。
 - A：（各項目の合計点数）／（項目数に3を乗じた数）が120％以上である場合には、「極めて順調」とする。
 - B：（各項目の合計点数）／（項目数に3を乗じた数）が100％以上120％未満である場合には、「順調」とする。
 - C：（各項目の合計点数）／（項目数に3を乗じた数）が80％以上100％未満である場合には、「概ね順調」とする。
 - D：（各項目の合計点数）／（項目数に3を乗じた数）が80％未満である場合には、「要努力」とする。
- ・但し、評価の境界値に近接している場合であって、各学校の業務の実績に鑑みて、上位又は下位のランクに評価を変更すべき特段の事情がある場合には、理由を明記した上で評価委員長の判断でこれを行うことができる。

総 合 評 価

（学校の業務の実績）

本科・専修科を併設する学校業務、生徒・学生指導等の困難を乗り越え、最終の本科として、十分な国家試験合格率、海上就職率を獲得し目標を達成している。

（課題・改善点、業務運営に対する意見等）

H21年度からは専修科校として他の2校と協力し、確実に入学定員を満たす事が出来るよう学生募集に取り組むとともに、合格率・就職率及び成業率を高いレベルで維持できるよう教職員一丸となって努力していただきたい。

（その他推奨事例等）

基礎学力の不足した学生に対する、インターネットを利用した個人指導を実施している。

国立清水海上技術短期大学校
平成 2 0 年度業務実績評価調書

平成 2 1 年 4 月
海技教育機構内部評価委員会

平成 2 0 年度業務実績評価：国立清水海上技術短期大学校

業 務 の 実 績 評 価

評 価 項 目	評 価	評 定 理 由	意 見 等
1) 目標を達成するための取り組み及び 目標の達成状況を評価するもの			
海技士国家試験の合格率 (海上技術学校等)(海技大学校)	3	目標を達成するため、口述模擬試験の実施や授業 及び教材の工夫に取り組んでいるが、合格率がやや 目標を達成できなかった点は残念である。	今後も基礎学力低 下が懸念されること から、目標値を達成 するための取り組み に努力してもらいた い。
海事関連企業への就職率 (海上技術学校等)(海技大学校)	4	就職希望者 9 7 名中 9 2 名が海事関連企業に就職 している。	
研究の回数及び内容 (海技大学校)	-		
学生・生徒・受講生の募集 (海上技術学校等)(海技大学校)	4	オープンキャンパスに進路指導教諭の招待等、多 様な募集活動を実施し、応募者の増加につなげてい る。	
教育の達成状況(成業率、資格取得状況) (海上技術学校等)(海技大学校)	4	成業率が 9 6 % に達している。また、多数の上級 海技試験合格者を出している。	
実務教育(開催回数及び受講人数) (海技大学校)	-		
海事思想の普及 (海上技術学校等)(海技大学校)	3	静岡市内だけではなく、横浜市の小学生に対して も、カッター体験を実施する等、積極的に活動して いる。	

評 価 項 目	評 価	評 定 理 由	意 見 等
(2) 計画の達成に向けた課程及び 取り組み方を評価するもの			
授業評価アンケート等の自己評価 (海上技術学校等)(海技大学校)	3	授業アンケート、研究授業の結果を授業改善に役 立てている。	
各学校で実施する研修 (海上技術学校等)(海技大学校)	3	主として新人教員に対する校内研修を積極的に実 施し、教員の技能向上に努めている。	
意見交換会の実施 (海上技術学校等)(海技大学校)	3	中部地方船員対策連絡協議会をはじめとして、関 係機関、海運業界との積極的な意見交換を実施して いる。	
保護者会の実施 (海上技術学校)	-		
自己収入の確保 (海技大学校)	-		
(3) その他			
自主改善努力 (海上技術学校等)(海技大学校)	B	選択科目の基礎学力別の分級授業においては、学 生の学力向上に大変役立っている。	

< 記入要領 > ・項目ごとの「評定結果」の欄に、以下の段階的評定を記入するとともに、その右の「評定理由」欄に理由を記入する。

5 点：中期目標の達成に向けて特筆すべき優れた実施状況にあると認められる。

4 点：中期目標の達成に向けて優れた実施状況にあると認められる。

3 点：中期目標の達成に向けて着実な実施状況にあると認められる。

2 点：中期目標の達成に向けて概ね着実な実施状況にあると認められる。

1 点：中期目標の達成に向けて着実な実施状況にあると認められない。

・ 5 点をつけた項目には、特筆すべきと判断した理由として、他の項目における実績との違いを「評定理由」欄に明確に記述するものとする。

・ 必要な場合には、右欄に意見を記入する。

・ 自主改善努力の評価は、下の 3 段階の評価とする。

A：とくに優れた実践事例として認められる。

B：優れた実践事例として認められる。

C：優れた実践事例として認められない。

平成 2 0 年度業務実績評価調書：国立清水海上技術短期大学校

総合的な評価

業 務 運 営 評 価（実施状況全体）

極めて順調	順 調	概ね順調	要努力	評定理由
	○			

< 記入要領 >

- ・ 個別項目の認定結果をもとに、以下の判断基準により、それぞれの欄に○を記入する。
 - A : (各項目の合計点数) / (項目数に 3 を乗じた数) が 1 2 0 % 以上である場合には、「極めて順調」とする。
 - B : (各項目の合計点数) / (項目数に 3 を乗じた数) が 1 0 0 % 以上 1 2 0 % 未満である場合には、「順調」とする。
 - C : (各項目の合計点数) / (項目数に 3 を乗じた数) が 8 0 % 以上 1 0 0 % 未満である場合には、「概ね順調」とする。
 - D : (各項目の合計点数) / (項目数に 3 を乗じた数) が 8 0 % 未満である場合には、「要努力」とする。
- ・ 但し、評価の境界値に近接している場合であって、各学校の業務の実績に鑑みて、上位又は下位のランクに評価を変更すべき特段の事情がある場合には、理由を明記した上で評価委員長の判断でこれを行うことができる。

総 合 評 価

（学校の業務の実績）

教育目的に沿って、着実に業務に取り組んでおり、学生指導などできめ細かな対応が見られる。

（課題・改善点、業務運営に対する意見等）

少子化の進行で、今後の学生募集が厳しい局面を迎える事が予想される。専修科 3 校の協調した募集活動の取り組みが不可欠であり、本部と連携しつつ 3 校が協調して成果を上げて頂きたい。

（その他推奨事例等）

選択科目の基礎学力別の分級授業においては、学生の学力向上に成果をあげている。

国立波方海上技術短期大学校
平成 2 0 年度業務実績評価調書

平成 2 1 年 4 月
海技教育機構内部評価委員会

平成 2 0 年度業務実績評価：国立波方海上技術短期大学校

業 務 の 実 績 評 価

評 価 項 目	評 価	評 定 理 由	意 見 等
1) 目標を達成するための取り組み及び 目標の達成状況を評価するもの			
海技士国家試験の合格率 (海上技術学校等)(海技大学校)	4	95.1%という高い合格率をあげた。	
海事関連企業への就職率 (海上技術学校等)(海技大学校)	4	就職指導の強化により、98.3%の就職率を達成している。	
研究の回数及び内容 (海技大学校)	-		
学生・生徒・受講生の募集 (海上技術学校等)(海技大学校)	3	結果は伴っていないが、きめ細かい募集活動を実施している点は評価できる。	オープンキャンパスへの応募者誘導について工夫が必要と考える。
教育の達成状況(成業率、資格取得状況) (海上技術学校等)(海技大学校)	3	1年生の退学者が10名と多い点について、分析とその対策が必要である。	
実務教育(開催回数及び受講人数) (海技大学校)	-		
海事思想の普及 (海上技術学校等)(海技大学校)	3	体験乗船等計画通り実施しているが、地域対応を含めて、検討の余地がある。	

評 価 項 目	評 価	評 定 理 由	意 見 等
(2) 計画の達成に向けた課程及び 取り組み方を評価するもの			
授業評価アンケート等の自己評価 (海上技術学校等)(海技大学校)	3	授業アンケート、研究授業の結果を授業改善に役 立てている。	
各学校で実施する研修 (海上技術学校等)(海技大学校)	3	新任教員に対する校内練習船や小型船舶の操船等 の研修を行い、積極的に習熟に努めている。	
意見交換会の実施 (海上技術学校等)(海技大学校)	3	関係機関、海運業界と積極的に意見交換を実施し ている。	
保護者会の実施 (海上技術学校)	-		
自己収入の確保 (海技大学校)	-		
(3) その他			
自主改善努力 (海上技術学校等)(海技大学校)	B	体調管理の指導を徹底することにより、昨年度に 比べ、格段に欠席・結果をする学生の減少に努めて いる。	

< 記入要領 > ・項目ごとの「評定結果」の欄に、以下の段階的評定を記入するとともに、その右の「評定理由」欄に理由を記入する。

5 点：中期目標の達成に向けて特筆すべき優れた実施状況にあると認められる。

4 点：中期目標の達成に向けて優れた実施状況にあると認められる。

3 点：中期目標の達成に向けて着実な実施状況にあると認められる。

2 点：中期目標の達成に向けて概ね着実な実施状況にあると認められる。

1 点：中期目標の達成に向けて着実な実施状況にあると認められない。

- ・ 5 点をつけた項目には、特筆すべきと判断した理由として、他の項目における実績との違いを「評定理由」欄に明確に記述するものとする。
- ・ 必要な場合には、右欄に意見を記入する。
- ・ 自主改善努力の評価は、下の 3 段階の評価とする。
 - A：とくに優れた実践事例として認められる。
 - B：優れた実践事例として認められる。
 - C：優れた実践事例として認められない。

平成 2 0 年度業務実績評価調書：国立波方海上技術短期大学校

総合的な評価

業 務 運 営 評 価（実施状況全体）

極めて順調	順 調	概ね順調	要努力	評価理由
	○			

< 記入要領 >

- ・ 個別項目の認定結果をもとに、以下の判断基準により、それぞれの欄に○を記入する。
 - A : (各項目の合計点数) / (項目数に 3 を乗じた数) が 1 2 0 % 以上である場合には、「極めて順調」とする。
 - B : (各項目の合計点数) / (項目数に 3 を乗じた数) が 1 0 0 % 以上 1 2 0 % 未満である場合には、「順調」とする。
 - C : (各項目の合計点数) / (項目数に 3 を乗じた数) が 8 0 % 以上 1 0 0 % 未満である場合には、「概ね順調」とする。
 - D : (各項目の合計点数) / (項目数に 3 を乗じた数) が 8 0 % 未満である場合には、「要努力」とする。
- ・ 但し、評価の境界値に近接している場合であって、各学校の業務の実績に鑑みて、上位又は下位のランクに評価を変更すべき特段の事情がある場合には、理由を明記した上で評価委員長の判断でこれを行うことができる。

総 合 評 価

（学校の業務の実績）

年度計画に基づき、各業務に積極的に取り組んでいる。

（課題・改善点、業務運営に対する意見等）

少子化の進行で、今後の学生募集が厳しい局面を迎える事が予想される。専修科 3 校の協調した募集活動の取り組みが不可欠であり、本部と連携しつつ 3 校が協調して成果を上げて頂きたい。

（その他推奨事例等）

海技大学校
平成 2 0 年度業務実績評価調書

平成 2 1 年 4 月
海技教育機構内部評価委員会

業 務 の 実 績 評 価

評 価 項 目	評 価	評 定 理 由	意 見 等
1) 目標を達成するための取り組み及び 目標の達成状況を評価するもの			
海技士国家試験の合格率 (海上技術学校等)(海技大学校)	4	目標値を達成するため、模擬口述試験の実施や教員による国家試験の解説等の取り組みを行い、93.8%の合格率を達成している。	
海事関連企業への就職率 (海上技術学校等)(海技大学校)	5	就職希望者全員が海事関連企業に就職している。	
研究の回数及び内容 (海技大学校)	4	一般研究に関して、目標値を大きく上回っている。	
学生・生徒・受講生の募集 (海上技術学校等)(海技大学校)	3	年度末まで多様な取り組みがなされている点を評価するが、定員割れあるいは昨年度より低い実績となっているコースがあるのは残念である。	
教育の達成状況(成業率、資格取得状況) (海上技術学校等)(海技大学校)	3	少人数教育の利点を活かし、高い成業率を維持している。	
実務教育(開催回数及び受講人数) (海技大学校)	4	海運会社のニーズに適切に対応し、特に運航実務コース及び船舶保安管理者コースで計画を上回る実績を上げている。	
海事思想の普及 (海上技術学校等)(海技大学校)	4	体験航海、公開講座、施設見学等により小中学生、一般市民への海事思想の普及に努めている。	

評 価 項 目	評 価	評 定 理 由	意 見 等
(2) 計画の達成に向けた課程及び 取り組み方を評価するもの			
授業評価アンケート等の自己評価 (海上技術学校等)(海技大学校)	3	計画どおり実施している。	
各学校で実施する研修 (海上技術学校等)(海技大学校)	3	多種多様な研修を教員が受講している。	
意見交換会の実施 (海上技術学校等)(海技大学校)	3	特に外航船社と意見交換に取り組んでいる。	
保護者会の実施 (海上技術学校)	-		
自己収入の確保 (海技大学校)	4	運航実務コース、船舶安全管理者コースなど自己 収入の確保に努めている。	
(3) その他			
自主改善努力 (海上技術学校等)(海技大学校)	B	三級水先コースにおける、内航船乗船研修の実現 に向けた船社との交渉等、乗船研修の実現に向けた 学校の努力は評価できる。	

< 記入要領 > ・項目ごとの「評価結果」の欄に、以下の段階的評価を記入するとともに、その右の「評価理由」欄に理由を記入する。

5 点：中期目標の達成に向けて特筆すべき優れた実施状況にあると認められる。

4 点：中期目標の達成に向けて優れた実施状況にあると認められる。

3 点：中期目標の達成に向けて着実な実施状況にあると認められる。

2 点：中期目標の達成に向けて概ね着実な実施状況にあると認められる。

1 点：中期目標の達成に向けて着実な実施状況にあると認められない。

- ・ 5 点をつけた項目には、特筆すべきと判断した理由として、他の項目における実績との違いを「評価理由」欄に明確に記述するものとする。
- ・ 必要な場合には、右欄に意見を記入する。
- ・ 自主改善努力の評価は、下の 3 段階の評価とする。
 - A：とくに優れた実践事例として認められる。
 - B：優れた実践事例として認められる。
 - C：優れた実践事例として認められない。

平成 2 0 年度業務実績評価調書：海技大学校

総合的な評価

業 務 運 営 評 価（実施状況全体）

極めて順調	順 調	概ね順調	要努力	評定理由
○				

< 記入要領 >

- ・ 個別項目の認定結果をもとに、以下の判断基準により、それぞれの欄に○を記入する。
 - A : (各項目の合計点数) / (項目数に 3 を乗じた数) が 1 2 0 % 以上である場合には、「極めて順調」とする。
 - B : (各項目の合計点数) / (項目数に 3 を乗じた数) が 1 0 0 % 以上 1 2 0 % 未満である場合には、「順調」とする。
 - C : (各項目の合計点数) / (項目数に 3 を乗じた数) が 8 0 % 以上 1 0 0 % 未満である場合には、「概ね順調」とする。
 - D : (各項目の合計点数) / (項目数に 3 を乗じた数) が 8 0 % 未満である場合には、「要努力」とする。
- ・ 但し、評価の境界値に近接している場合であって、各学校の業務の実績に鑑みて、上位又は下位のランクに評価を変更すべき特段の事情がある場合には、理由を明記した上で評価委員長の判断でこれを行うことができる。

総 合 評 価

（学校の業務の実績）

海運業界等のニーズの把握に努め、自己収入の増加の観点からも特に力を入れ、教職員一同が海技大学校の使命・役割を自覚し業務を着実に遂行している。

（課題・改善点、業務運営に対する意見等）

定員割れあるいは昨年度より低い実績となっているコースがあることから、応募者の確保に向けて更なる募集活動に取り組んでいただきたい。

（その他推奨事例等）

授業評価アンケート報告書

海技士教育科海技課程本科・海技士教育科海技課程専修科

(平成20年度)

より良い授業にすることを目的として、海技士教育科海技課程本科(以下「本科」という)及び海技士教育科海技課程専修科(以下「専修科」という)において、授業評価アンケートを実施し、アンケート結果の集計から報告書を作成した。

1. アンケート実施方法

アンケートは、本科と専修科に分けて、それぞれ座学と実習・実技について実施した。
アンケートの実施方法等については次のとおり。

本科

座学については、全教員が担当している科目のうち1科目についてのみ年度内に2回実施することとし、実施時期については、担当教員に任せた。

実習実技については、海上実習、航機実技それぞれについて全学年1回ずつ実施する。

専修科

座学については、1年生においては、全教員が担当している科目のうち1科目についてのみ年度内に2回実施することとし、実施時期については、担当教員に任せた。

2年生においては、航海訓練所練習船実習が大半を占めるため、年1回のみの実施とした。

実習実技については、海上実習、航機実技それぞれについて1年生のみを1回ずつ実施する。

2. アンケートの設問項目と集計結果

本科

）設問及び回答

a 座学用のアンケートの設問

「はい」・「どちらでもない」・「いいえ」の3つの中から選択する設問 9問

- 問1. 先生の声や言葉はよく聞こえましたか?
- 問2. 黒板の文字は見やすかったですか?
- 問3. 先生は、難しいところをていねいに教えてくれましたか?
- 問4. 先生は、授業の内容を熱心に教えてくれましたか?
- 問5. 先生の話を中心してよく聞きましたか?
- 問6. わかりやすい授業をするために工夫していると感じましたか?
- 問7. 今日の授業の内容がよくわかりましたか?
- 問8. 今日の授業の内容に満足しましたか?
- 問9. 今日の授業は役立つと思いましたか?

自由記述式の設問

「授業についての意見や希望を自由に書いてください」

b 実習・実技用のアンケートの設問

「はい」・「どちらでもない」・「いいえ」の3つの中から選択する設問 10問

- 問1. 先生は、安全に実習・実技を行うよう注意していますか？
 問2. 座学で学んでいることと関連づけて教えてくれますか？
 問3. 先生は、生徒の理解度にあわせて指導をしてくれますか？
 問4. 先生は、一生懸命に教えてくれますか？
 問5. 先生は、授業に対する準備がきちんとできていますか？
 問6. 先生は、分かりやすく教えてくれますか？
 問7. 実習や実技の内容に興味を持てますか？
 問8. 総合的にみて、この授業に満足していますか？
 問9. 技術を身につけるために、積極的に授業に取り組んでいますか？
 問10. 今日の授業は、将来船員になったとき役立つと思いますか？

自由記述式の設問

「授業についての意見や希望を自由に書いてください」

）アンケート集計結果

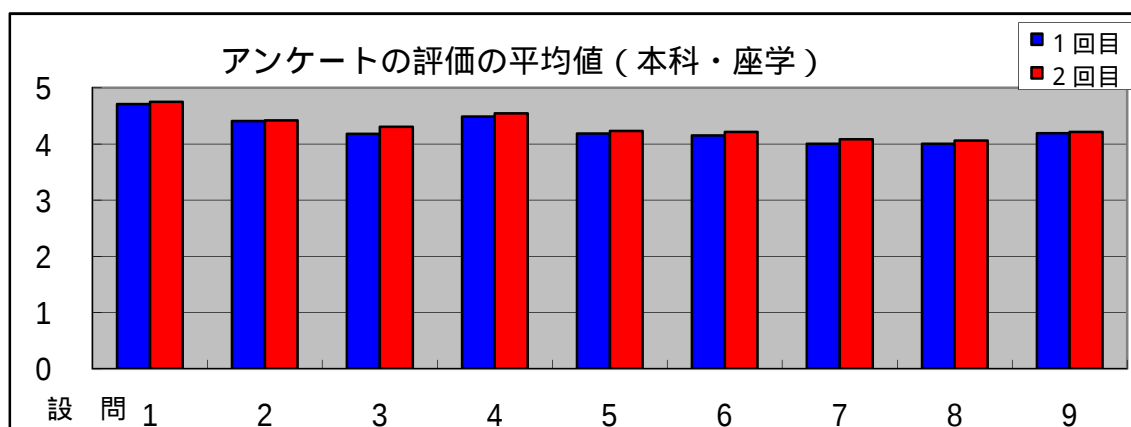
アンケートの集計及びその集計結果については、「はい」を5、「どちらでもない」を3、「いいえ」を1の評価値とし、各設問毎に3つの回答の数の集計を行い、平均値をとり、その値を評価の平均値とした。値が大きいほど高い評価となる。

本学科全体としての各設問毎の評価の平均値は次のとおり。（設問毎に全アンケートの平均値を求め、本学科4校の平均をとった。）

座学に関するアンケート集計結果

設問1～設問9に対する評価

設 問	1 回目	2 回目
問1 先生の声や言葉はよく聞こえましたか？	4.71	4.75
問2 黒板の文字は見やすかったですか？	4.41	4.42
問3 先生は、難しいところをていねいに教えてくれましたか？	4.18	4.30
問4 先生は、授業の内容を熱心に教えてくれましたか？	4.49	4.55
問5 先生の話集中してよく聞きましたか？	4.18	4.23
問6 わかりやすい授業をするために工夫していると感じましたか？	4.15	4.22
問7 今日の授業の内容がよくわかりましたか？	4.00	4.08
問8 今日の授業の内容に満足しましたか？	4.00	4.06
問9 今日の授業は役立つと思いましたか？	4.19	4.21



生徒からの意見・希望

自由記述式で出された生徒からの意見や希望について、良かった点及び改善すべき点に分け、下記のような分類としてまとめた。

〔良かった点〕

教授技術、教材の工夫等（回答の37％）

- ・ 教え方・ペースがとてもいい
- ・ 絵等をよく書いてくれ分かりやすい
- ・ 声が大きくて聞き取りやすかった
- ・ 経験談を通して問題を解決するので分かりやすい
- ・ 実際の動いているのを見て納得した

理解度・満足度（回答の35％）

- ・ 授業が分かりやすく工夫していると思う
- ・ 難しい所をゆっくりと教えてくれるのでよかった
- ・ テストもちょうとやった所がでるので満足している
- ・ 毎回しっかりと復習してくれるのでよく理解できる

授業の雰囲気（回答の15％）

- ・ 授業が楽しい、分からない人にもしっかり教えてくれるので助かる
- ・ 船での経験談がおもしろい
- ・ 授業に笑いがあって飽きない

意欲の喚起（回答の5％）

- ・ 興味がわくような話をしてくれるのでとても授業が楽しい
- ・ 就職したら役立つと思う

その他

- ・ 専門科目が好きです
- ・ 今までありがとうございました

〔改善すべき点〕

教授技術等に関する改善（回答の41％）

- ・ ペースが早い
- ・ 授業の進むスピードが遅い
- ・ 例えのようなものを出して欲しい
- ・ 字を見やすくして欲しい
- ・ ノートをとっているときの説明は困る
- ・ もう少しはっきり話して欲しい

理解度、満足度に関する改善（回答の27％）

- ・ もうちょっと分かりやすく説明して欲しい
- ・ 内容が難しかった
- ・ 理解度の低い生徒に基礎学力の向上をはかって欲しい
- ・ もう少し発展的な、教科書に載ってないようなことも教えて欲しい

教材等に関する改善（回答の23％）

- ・ 実際にしようされる機器を見て勉強したい
- ・ 計算が苦手なので練習プリントがほしい
- ・ 分からないところは映像を使って教えて欲しい

授業の雰囲気等に関する改善（3％）

- ・ 生徒の質問に答えて欲しい
- ・ うるさい人や寝ている人を注意したり叱ったりして欲しい

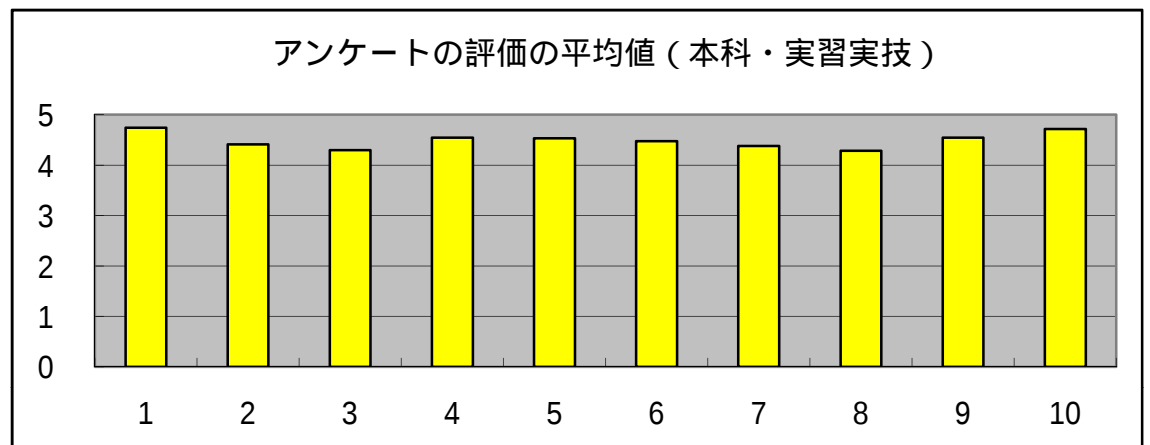
その他

- ・ 名前を間違えないで欲しい
- ・ もっと機関のことを知りたい
- ・ テストのときは書きやすくして欲しい

実習実技に関するアンケート集計結果

設問 1 ～ 設問 10 に対しての評価

設 問	評価
問 1 先生は、安全に実習・実技を行うよう注意していますか？	4.74
問 2 座学で学んでいることと関連づけて教えてくれますか？	4.41
問 3 先生は、生徒の理解度にあわせて指導をしてくれますか？	4.30
問 4 先生は、一生懸命に教えてくれますか？	4.54
問 5 先生は、授業に対する準備がきちんとできていますか？	4.53
問 6 先生は、分かりやすく教えてくれますか？	4.47
問 7 実習や実技の内容に興味を持てますか？	4.38
問 8 総合的にみて、この授業に満足していますか？	4.28
問 9 技術を身につけるために、積極的に授業に取り組んでいますか？	4.54
問10 今日の授業は、将来船員になったとき役立つと思いますか？	4.72



生徒からの意見・希望

自由記述式で出された生徒からの意見や希望について、良かった点及び改善すべき点に分け、下記のような分類としてまとめた。

〔良かった点〕

理解度・満足度（回答の 41 %）

- ・ すごく楽しく、ためになります
- ・ 実際の作業で、座学と関連させて理解することができた
- ・ ボルトの頭を見ただけで、サイズが分かるようになった
- ・ 船を自分の指示で動かしている実感が持てた

実習内容（回答の 36 %）

- ・ 先生達は安全に気を配って実習をしている
- ・ 座学よりも面白く将来役に立つと思う
- ・ ロープワークは分かりやすい、楽しくできる

意欲の喚起（回答の 23 %）

- ・ 楽しい、もっと機関実技をやりたい、もっといろんなことをしたい

〔改善すべき点〕

理解度、満足度に関する改善（回答の 41 %）

- ・ もっと詳しくしてほしい
- ・ 海上実習の時間が短い（遠くまで航海したい）、時間をもっと増やして欲しい
- ・ 同じことの繰り返しで乗っているだけ
- ・ 座学と実技との関連が少ない
- ・ 座学で何も分かっていないのに実習をするというのは無理

実習内容に関する改善（回答の 25 %）

- ・ もっと時間を増やして欲しい
- ・ ちょっとした時化や雨の時でも練習船を出したい
- ・ バリエーションを増やして欲しい

教授技術等に関する改善（回答の 11 %）

- ・ 実習前にプリントを配布したりして内容を教えて欲しい
- ・ 教える人によって分かりやすさが違う
- ・ もう少し分かりやすく説明して欲しい

教材等に関する改善（回答の 9 %）

- ・ 実物を見せて欲しい
- ・ 練習船の資料が欲しい
- ・ 機械が古い

その他

- ・ 夜航海がしてみたい
- ・ 実習のメンバーを定期的に代えて欲しい
- ・ 夏場は飲み物を持参したい

）設問及び回答

1 年座学、2 年座学、実習実技（1 年）とも、「非常に良い（非常にそうである）」を 5、「良い（かなりそうである）」を 4、「普通（どちらともいえない）」を 3、「良くない（あまりそうでない）」を 2、「全く良くない（まったくそうでない）」を 1 とし、回答欄にその番号を記入する設問を 10 問とし、学生からの意見等については自由記述式とした。

a 1 年座学用のアンケートの設問

- 1．よく予習、復習をして授業を受けた
- 2．授業に興味を持てた
- 3．授業中は、先生の話す内容によく集中していた
- 4．先生の教育に対する情熱・熱意が感じられた
- 5．先生の授業に対する準備が十分されていた
- 6．先生の話し方は明瞭で聞き取りやすかった
- 7．学生の理解度を把握して授業を進めていた
- 8．黒板の板書の仕方や視聴覚教材の使い方が効果的であった
- 9．学生の質問に誠実に解答していた
- 10．総合的に判断して、この授業に満足した

自由記述式の設問

「この授業について感じたことや意見があれば自由に書いてください」

b 2 年座学用のアンケートの設問

- 1．技術を身につけようと積極的に行動した
- 2．授業に興味を持てた
- 3．学校での座学が練習船実習で役に立った
- 4．学校での実習・実技が練習船実習で役に立った
- 5．2 年間の教育が、将来船員になったとき役に立つと感じた
- 6．将来海運界で働ける自信が付いた
- 7．寮生活に満足した
- 8．学校の設備に満足した
- 9．四級海技士口述試験に合格する自信がついた
- 10．総合的に判断して、授業に満足した

自由記述式の設問

「この授業について感じたことや意見があれば自由に書いてください」

c 1 年実習・実技用のアンケートの設問

- 1．技術を身につけようと積極的に行動した
- 2．授業中は、先生の話す内容に集中していた
- 3．この授業が将来船員になったとき、役に立つと感じた
- 4．先生の教育に対する情熱・熱意が感じられた
- 5．先生の授業に対する準備が十分されていた
- 6．先生の話し方は明瞭で聞き取りやすかった
- 7．学生の理解度を把握して授業を進めていた
- 8．座学での知識が関連づけられていて分かりやすかった
- 9．先生は授業中、安全面の配慮を十分行っていた
- 10．総合的に判断して、この授業に満足した

自由記述式の設問

「この授業について感じたことや意見があれば自由に書いてください」

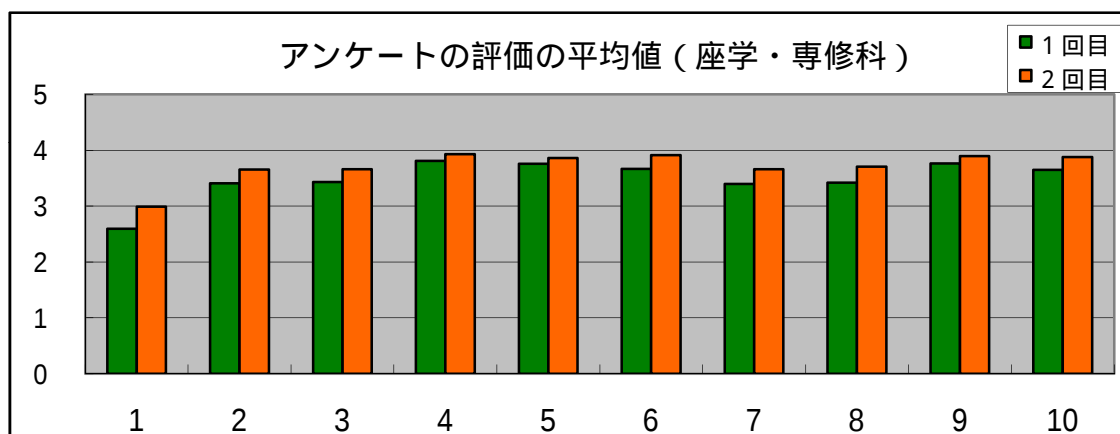
）アンケート集計結果

アンケートの集計及びその集計結果については、回答欄に記入した値を評価値として集計を行い、平均値をとった。値の大きいほど高い評価となる。
専修科 2 校の各設問毎の評価の平均値は次のとおり。

座学に関するアンケート集計結果（1 年）

設問 1 ～ 設問10に対する評価

設 問	1 回目	2 回目
問 1 よく予習、復習をして授業を受けた	2.59	2.99
問 2 授業に興味を持てた	3.41	3.66
問 3 授業中は、先生の話す内容によく集中していた	3.43	3.66
問 4 先生の教育に対する情熱・熱意が感じられた	3.81	3.93
問 5 先生の授業に対する準備が十分されていた	3.76	3.86
問 6 先生の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	3.67	3.91
問 7 学生の理解度を把握して授業を進めていた	3.40	3.66
問 8 黒板の板書の仕方や視聴覚教材の使い方が効果的であった	3.42	3.70
問 9 学生の質問に誠実に解答していた	3.76	3.89
問10 総合的に判断して、この授業に満足した	3.65	3.88



学生からの意見・希望

自由記述式で出された学生からの意見や希望について、良かった点及び改善すべき点に分け、下記のような分類としてまとめた。

〔良かった点〕

教授技術、教材の工夫等（回答の 6 2 %）

- ・ 板書が見やすく、ノートにまとめやすかった
- ・ いろいろな模型や実物を持ってきてくれるので分かりやすい
- ・ 声が大きく、説明や話し方が分かりやすい
- ・ テーマ毎のプリントが分かりやすかった
- ・ テスト対策のプリントを見ても授業に対する熱意を感じる
- ・ 大事な所は色を分けて板書してくれるので理解しやすい

理解度、満足度（回答の 2 1 %）

- ・ 理解できるところまで教えてくれるのがいい。詳しい所まで理解できた。
- ・ 乗船実習から帰ってきてからの授業でより理解と興味が深まった
- ・ トータルの分かりやすい。構造や仕組みを一番に理解させようとするのがいい

授業の雰囲気（回答の 1 5 %）

- ・ 体験談や雑談を交えながらの授業が良かった。体験談を増やして欲しい
- ・ 楽しくやってもらえるので苦にならないで受けられる

その他

- ・ 今まで通りで充分です

〔改善すべき点〕

教授技術等に関する改善（回答の67％）

- ・ 進め方が早すぎる。もう少し時間をかけて説明して欲しい
- ・ 板書に関すること
 - 板書をもっときれいに書いて欲しい
 - 図を丁寧に書いて欲しい
 - 板書の字をもっと大きく書いて欲しい
 - 板書の際はもう少し説明を加えて欲しい
- ・ 授業の進め方が高圧的
- ・ 声が小さい

理解度、満足度に関する改善（回答の25％）

- ・ 板書するときに結論だけでなく、なぜそうなるのかも書いて欲しい
- ・ 図では理解できたが、文章ではうまく表現できない
- ・ 教科書をもっと分かりやすくして欲しい

授業の雰囲気に関する改善（回答の3％）

- ・ 雑談を減らして欲しい。

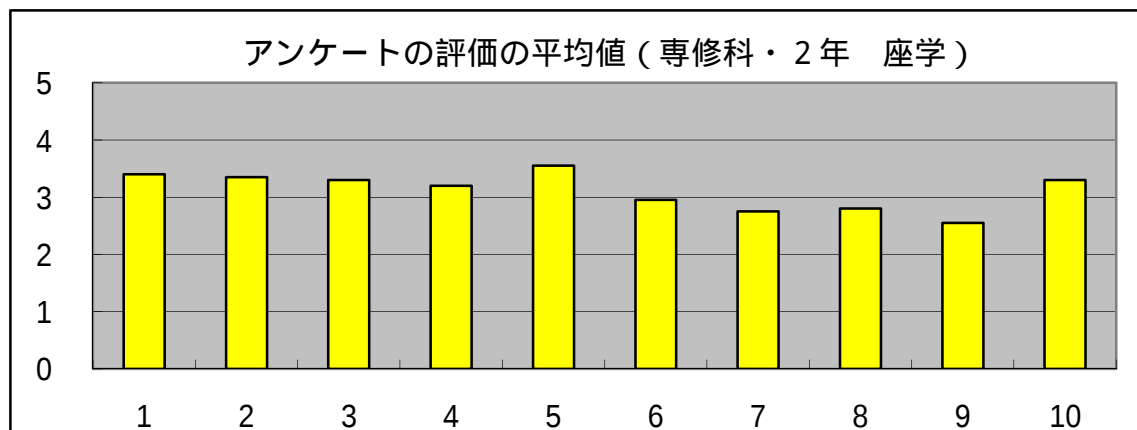
その他

- ・ 時間割が不規則なので困る
- ・ モニターが後ろの席からは見づらい

座学に関するアンケート集計結果（2年）

設問1～設問10に対する評価

設 問	評価
問1 技術を身につけようと積極的に行動した	3.40
問2 授業に興味を持てた	3.35
問3 学校での座学が練習船実習で役に立った	3.30
問4 学校での実習・実技が練習船実習で役に立った	3.20
問5 2年間の教育が、将来船員になったとき役に立つと感じた	3.55
問6 将来海運界で働ける自信が付いた	2.95
問7 寮生活に満足した	2.75
問8 学校の設備に満足した	2.80
問9 四級海技士口述試験に合格する自信がついた	2.55
問10 総合的に判断して、授業に満足した	3.30



学生からの意見・希望

自由記述式で出された学生からの意見や希望について、良かった点及び改善すべき点に分け、下記のような分類としてまとめた。

〔良かった点〕

理解度、満足度（回答の34％）

- ・ 全体的に分かりやすく良かった
- ・ 航海のほう楽しかった
- ・ 1年の時よりも機関が好きになった

意欲の喚起（回答の33％）

- ・ もっと実習をしたい

- ・ 計器をもっと覚えたい
- 教授技術、教材の工夫等（回答の 11 %）
- ・ 分かりやすく良かった

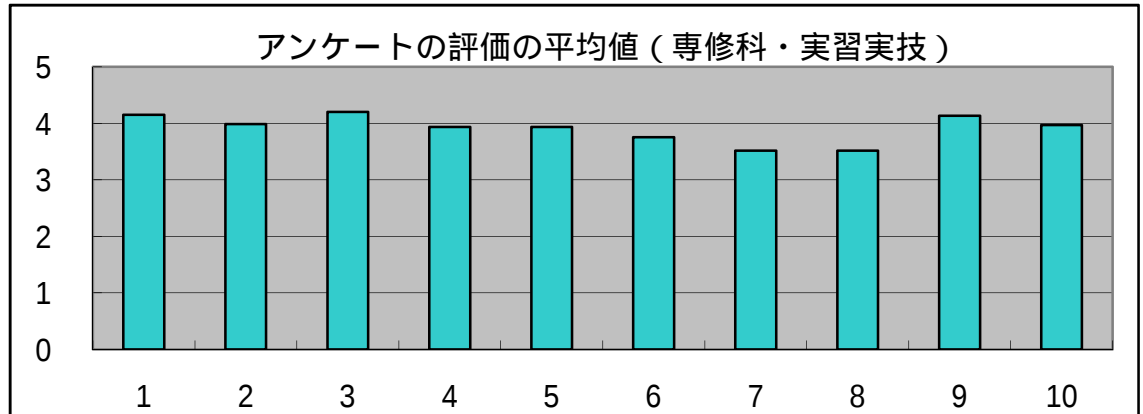
〔改善すべき点〕

- 理解度、満足度に関する改善（回答の 41 %）
 - ・ 両用教育よりも片側だけの方がいいではないか
 - ・ 練習船から帰ってくると間隔が空いているので前に学習したことを忘れている
 - ・ 実際に船に乗らないと経験がつかない
- 教材等に関する改善（回答の 37 %）
 - ・ 回答は板書して欲しい
 - ・ 授業の進め方を工夫して欲しい
 - ・ 教え方に差がある
- 雰囲気に関する改善（回答の 15 %）
 - ・ 雑談が多い

実習実技に関するアンケート集計結果

設問 1 ～ 設問10に対する評価

設 問	評 価
問 1 技術を身につけようと積極的に行動した	4.15
問 2 授業中は、先生の話す内容に集中していた	3.98
問 3 この授業が将来船員になったとき、役に立つと感じた	4.20
問 4 先生の教育に対する情熱・熱意が感じられた	3.93
問 5 先生の授業に対する準備が十分されていた	3.93
問 6 先生の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	3.75
問 7 学生の理解度を把握して授業を進めていた	3.52
問 8 座学での知識が関連づけられていて分かりやすかった	3.52
問 9 先生は授業中、安全面の配慮を十分行っていた	4.13
問10 総合的に判断して、この授業に満足した	3.97



学生からの意見・希望

自由記述式で出された学生からの意見や希望について、良かった点及び改善すべき点に分け、下記のような分類としてまとめた。

〔良かった点〕

- 理解度・満足度（回答の 78 %）
 - ・ 実際に乗船して取り組むので、座学では分かりにくい所も理解できた
 - ・ 来島海峡付近での実習はとても楽しい
 - ・ 各先生の現役時代の話を変えて実習するので、理解するきっかけになった
- 教授技術・教材の工夫等（回答の 11 %）
 - ・ 学生が一進一退にならないようにしっかり指導してくれた
- 意欲の喚起（回答の 11 %）
 - ・ サバイバル訓練が楽しみです

〔改善すべき点〕

理解度、満足度に関する改善（回答の 6 2 %）

- ・ 間隔が長くて前のことを忘れてしまう、授業時間数を増やして欲しい
- ・ もっと少人数にして欲しい
- ・ もっと機械に触らせて欲しい

実習内容に関する改善（回答の 1 9 %）

- ・ 機関の実習をもっと分かりやすくして欲しい
- ・ 小型船舶の免許を持っている学生にも操縦させて欲しい
- ・ 休憩がない

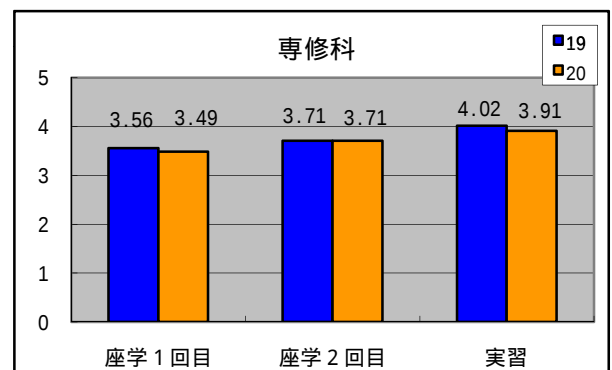
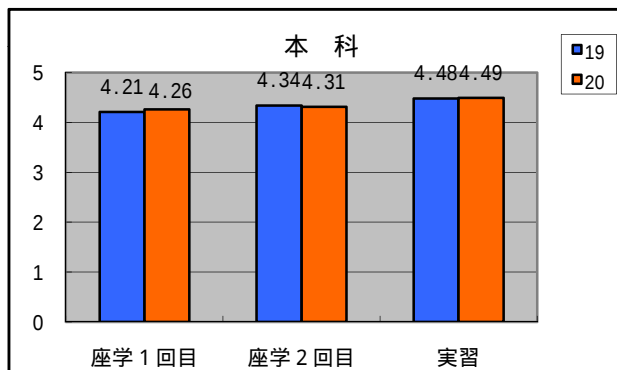
教授技術、教材の工夫に関する改善（回答の 1 2 %）

- ・ 先生によって教え方のスタンスが違うので、理解しにくい所がある
- ・ 機関の立ち上げや手仕舞いのマニュアルを作って欲しい

3 . 考察

総合的にみると、本科・専修科ともに座学においては全て評価値平均値が 1 回目より 2 回目以上回っており、このことは 1 回目のアンケート結果を受けて各教員が授業の改善に取り組んだ結果ではないかと思われます。

前年度（ 1 9 年度）との比較でみると、本科では座学・実習実技ともにほとんど同じような評価となっているのに対し、専修科では、わずかですが前年度の評価よりも低くなっています。専修科については、 2 年次のときに 9 ヶ月の乗船実習があるため、 1 年次と 2 年次とでアンケートの設問内容を変えており、そのことによってアンケートの対象学生が毎年違っており単純に比較はできないものの、このような傾向が続くのであれば対策を検討する必要があると思われる。

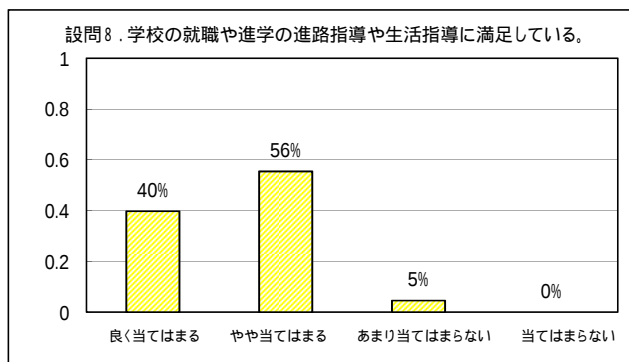
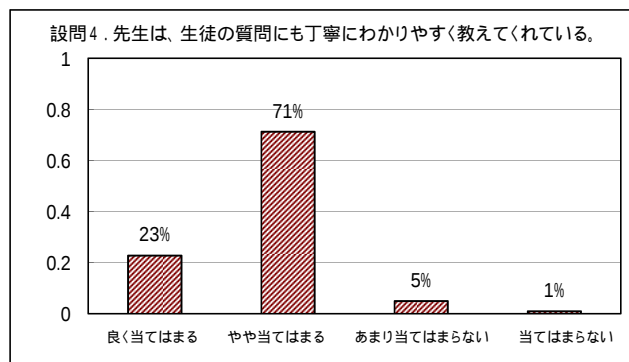
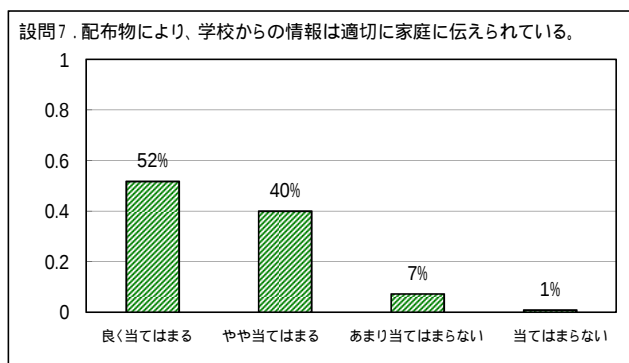
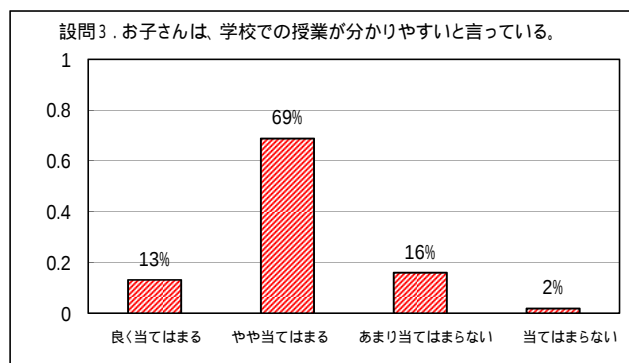
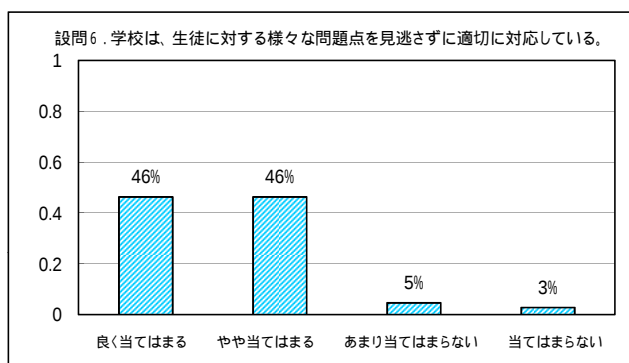
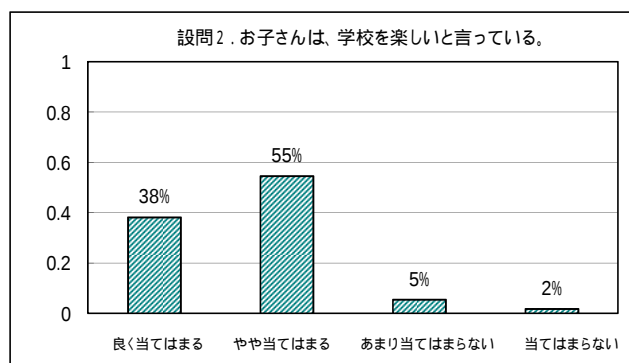
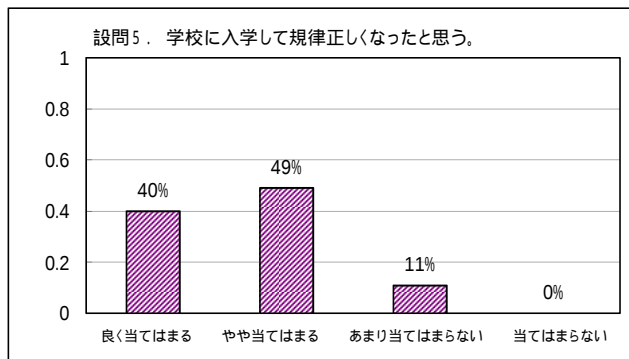
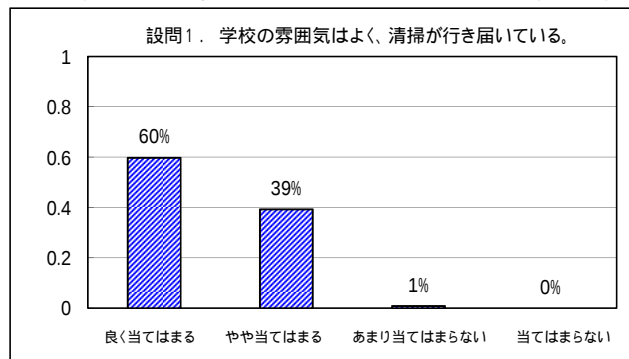


平成20年度 保護者アンケート 報告書

今年度から保護者等の外部の意見を取り入れることによって、授業改善や学習指導、生活指導につなげるため保護者アンケートを実施することとした。

実施にあたっては、保護者会実施校（本高校）でアンケートを行い、対象者は保護者会への参加者とした。

1. 回答を4つの中から選択する形式の設問および集計結果



所感

この設問においては、すべての設問において「よく当てはまる」「やや当てはまる」が「あまり当てはまらない」「あてはまらない」を大きく上回っている。

そのため、保護者からは学校の指導や授業など学校の体制について概ね高い評価を得られており、学校に対する信頼を得ているものと考えられる。

しかし、設問3の授業の分かりやすさ、設問5の規律正しさにおいて否定的な意見も出ており、今後授業評価アンケートや寮生活アンケート等を利用して、今後検討していく必要がある。

2. 自由記載形式の設問（代表的な意見を記載）

（１）授業見学した感想はいかがでしたか。 ... 回答数 48

肯定的な意見 （34 / 48） 71%

- ・まじめに授業を受け、ノートをとっていたので安心しました
- ・和やかな雰囲気、先生の一生懸命な姿に感謝します
- ・よくわかりやすい授業だった
- ・落ち着いて集中して授業に取り組んでいる感じがしました

否定的な意見 （14 / 48） 29%

- ・寝ている子がいました
- ・馴れ合いになって、だらけて見える
- ・後ろから見ていて、きちんと聞いているか疑問に思う生徒もいました
- ・こどもの規律性をもっと厳しくして欲しいです

（２）本校に入学させて、お子さんに期待していることは何ですか。 ... 回答数 60

- ・自立心、向上心の育成
- ・上下関係の大切さ、言葉使い
- ・立派な船員になって欲しい
- ・資格を取得し、卒業すること
- ・充実した毎日を送り、社会性を養い、人間関係を築く術を身につけて欲しい

（３）学校に改善してもらいたいことがありますか。

教育設備 ... 回答数 15

- ・図書設備の充実
- ・風呂とトイレの整備
- ・学年別に使える冷蔵庫
- ・冷房を各教室に

就職や進学の指導 ... 回答数 21

- ・本人と保護者、学校と本人とで意思の疎通をよく図るように指導して欲しい
- ・就職先や進路先について具体的に分かるような資料が欲しい
- ・卒業生の話折に触れて聞かせていただきたい
- ・生徒達が就職について危機感を持つような進路指導をお願いしたい

（４）学校に入学して、お子さんが変わったところはありますか。

よい面 ... 回答数 65

- ・いろんな面で成長した
- ・自分のことは自分でできるようになった
- ・多くの友達を得て、明るく活動的になりました
- ・中学校のときよりも親と話をすることが多くなったようです
- ・親に対して、感謝の気持ち、態度が表情に出てきています
- ・卒業後について、夢を持つようになった
- ・帰省したときに「ありがとう」の言葉が増えたように思う

悪い面 ... 回答数 33

- ・友達に流されるようになってきていると思う
- ・言葉使いが悪くなってきたように思う
- ・寮生活はいろいろと気を遣うのか、家に帰ると寝てばかりいる
- ・ゲームばかりして勉強していないのでは
- ・自分のことを話さなくなった

（５）その他 ... 回答数 23

- ・いつもお世話になりありがとうございます
- ・子供は寮生活を甘く考えていたようだが、大変だということを身にしみて分かったようです
- ・自分もこの学校で高校生活を送ってみたかと思うほど、いい環境で貴重な時間を過ごしていると思いますが、ただ文化的な刺激に乏しい気がします
- ・いつもホームページを楽しみに拝見しています。離れていても、写真から普段の様子が伝わり安心できます。これからもよろしくお願いします
- ・親も船の事を知りたいので、機関誌購読とかあるといいですね
- ・入学してくれてよかったと思います
- ・残り1年間いろいろなことを学んで欲しいです
- ・子供に夢を持ってもらいたいので、一度でもいいから自分の希望する船に乗せてあげたい
- ・生徒のみなさんが気持ちよく挨拶してくれ、関心しました

広報活動資料

	本科									
	小樽		館山		唐津		口之津		計	
	H19	H20	H19	H20	H19	H20	H19	H20	H19	H20
学校訪問数（中学校）	536	576	272	208	495	484	346	330	1,649	1,598
雑誌等への掲載回数	17	19	20	9	84	103	10	3	131	134
学校説明会への参加数	8	7	0	0	3	4	4	5	15	16
体験入学等開催回数	2	2	5	6	2	2	2	2	11	12
学校案内の発送部数	3,780	1,545	4,875	3,866	4,909	2,470	5,603	6,261	19,167	14,142
練習船寄港時のP R							1	2	1	2

	専修科									
	宮古		清水		波方		本部		計	
	H19	H20	H19	H20	H19	H20	H19	H20	H19	H20
学校訪問数（高等学校）	638	417	275	241	313	336	13	13	1,239	1,007
雑誌等への掲載回数	10	16	16	12	18	26			44	54
学校説明会への参加数	2	3	5	5	5	3			12	11
体験入学等開催回数	3	4	3	5	6	6			12	15
学校案内の発送部数	7,064	2,768	6,985	4,250	9,798	9,642			23,847	16,660
練習船寄港時のP R	1	1	1	1	1	2			3	4

資料14

平成20年度 研究分野別一覧表

[重点研究 (H18からの継続研究)]

研究番号	研究の分類	研究テーマ名	代表者	備考
A06-001-3	E	船舶運航におけるOJTに関する研究	航海科長	重点研究
A06-002-3	E	SMS・ETM船員教育訓練の研究	機関科長	重点研究

[一般研究 (H18からの継続研究)]

研究番号	研究の分類	研究テーマ名	代表者	備考
06-001-3	A	GPSマルチパス波を応用した計測に関する研究	奥田成幸	一般研究
06-002-3	C	救命いかだのぎ装品の有効性に関する実験的研究	山本一誠	一般研究
06-006-3	B	船用クレーンのケーブル配置に関する研究	前田潔	一般研究
06-008-3	E	将来の日本海事教育システムについての研究	引間俊雄	一般研究

[一般研究 (H19から継続研究)]

研究番号	研究の分類	研究テーマ名	代表者	備考
07-001-2	A	船舶接岸速度計の性能要件に関する研究	新井康夫	一般研究
07-002-2	E	自動ボイラ制御の教育訓練用補助ボイラシミュレータの研究	伊丹良治	一般研究
07-003-2	A	操船におけるA I S情報の活用に関する研究	堀昌彦	一般研究
07-004-2	D	閉水域における船舶運航に係わる海洋環境に関する研究	藤谷達也	一般研究
07-005-2	E	ディーゼル主機遠隔操縦シミュレータを用いた訓練手法の研究	佐藤圭司	一般研究
07-006-2	C	海難の統計的特性に基づく事故評価に関する基礎研究-	長畑司	一般研究

[一般研究 (H20新規研究)]

研究番号	研究の分類	研究テーマ名	代表者	備考
08-001-1	E	船用機関士のシステム操作におけるヒューマン・エラーに関する研究	池西憲治	一般研究
08-002-1	E	船用機関士に対する効果的なチーム訓練方法に関する研究	近藤宏一	一般研究
08-003-1	B	船舶及び船用機関の安全管理技術に関する研究	引間俊雄	一般研究
08-004-1	E	危機対応型ETM訓練についての研究 機関系フルミッションシミュレータを用いた訓練事例研究	城戸八郎	一般研究
08-005-1	E	船用プラント学習システムに関する研究()	野尻良彦	一般研究
08-006-1	A	操船における速度情報の総合的・安全・効率的かつ積極的活用に関する研究	新井康夫	一般研究
08-007-1	F	海事政策と異文化理解に関する研究～アメリカ文化の変容と「海洋」	杉田和己	一般研究
08-008-1	G	海事英語における船の動勢の描写についての一研究	田中賢司	一般研究
08-009-1	A	操船者の立場から見た船橋統合システムの活用に関する研究	藤江晋平	一般研究
08-010-1	D	再生可能エネルギーの船舶及び港湾設備への導入とその安全管理に関する研究	角 和芳	一般研究
	A	多視点での視界再現機構の応用的開発	新井康夫	受託研究
	A・E	操船シミュレータ訓練を通じての調査研究	増田憲司	受託研究
	A・E	訓練評価を考慮した操船シミュレータシステムの開発	増田憲司	受託研究

研究の分類

A	船舶の運航技術に関する研究(航海系)	重点研究	2
B	船舶の運航技術に関する研究(機関系)	一般研究	20
C	船舶の安全性・信頼性に関する研究	受託研究	3
D	海洋汚染等船舶の運航に関して発生する環境問題に関する研究	総計	25
E	船員の教育訓練に関する研究		
F	船員政策、海事法規、海事海運経済に関する研究		
G	海事思想の普及に関する研究		

独立行政法人海技教育機構
海技大学校

平成 19 年度
研究報告書

平成 20 年 7 月

海技大学校
研究管理委員会

〒659-0026 兵庫県芦屋市西藏町 12-24

TEL: 0797-22-9341(代表)

e-mail: soumu@mail.mtc.ac.jp

<http://www.mtc.ac.jp>

平成 1 9 年度 研究管理委員会委員

委員長 藤谷達也

航海科 北川哲男

川崎真人

機関科 池西憲治

藤栄嘉隆

学務課 加治屋敦史

平成 2 0 年度 研究管理委員会委員

委員長 藤谷達也

航海科 田口幸雄

川崎真人

機関科 伊丹良治

藤栄嘉隆

学務課 加治屋敦史

1. 序章

本報告書は「独立行政法人海技大学校(以下、海技大学校とする)研究業務規程第 5 条」に基づき、各研究テーマの代表者が理事長に提出した研究報告書をもとに、研究管理委員会が「海技大学校研究管理委員会規程第 2 条(6)」の規程により取りまとめたものである。なお、研究テーマごとに代表者が理事長に提出した上記の研究報告書の中で、「海技大学校研究業務評価要領」)に基づく研究担当者本人の自己評価及び教室評価が含まれている。この自己評価及び教室評価に加えて全体評価を研究管理委員会が行った。これらの評価の後、本報告書は教員会議及び幹部会の審議を経て承認されたものである。

2. 平成 19 年度研究業務の報告

2.1 実施研究テーマ

年度当初に研究者から提出された「教官研究テーマ申請書」に基づき承認された研究テーマは、表-1 に示す 17 件であった。 教官研究テーマの申請書には、研究の目的、研究の概要、研究の実施項目及び方法、期待される効果、必要経費、成果の発表予定等の記載を求めた。

いずれも、「船舶の運航に関する高度の技術及び技能並びに船員の教育に関する研究を行う」ものとする海技大学校業務方法書の研究業務の目的に添ったものになっている。

表-1 平成19年度海技大学校教官研究テーマ一覧表

研究番号	科	研究テーマ名	分類	代表者	終了・継続
A06-001	N	船舶運航におけるOJTに関する研究	重点研究	航海科長	継続
A06-002	E	SMS・ETM船員教育訓練の研究	重点研究	機関科長	継続
05-004-2	E	船用機関士の手続き的知識獲得に関する研究	E	池西憲治	終了
05-005-2	E	船用機関士に対する効果的なチーム訓練方法に関する研究	E	近藤宏一	終了
06-001	N	GPSマルチパス波を応用した計測に関する研究	A	奥田成幸	継続
06-002	N	救命いかだのぎ装品の有効性に関する実験的研究	C	山本一誠	継続
06-003	E	LNG船の水処理システムの研究	B	伊丹良治	継続
06-006	E	船用クレーンのケーブル配置に関する研究	B	前田潔	継続
06-008	E	将来の日本海事教育システムについての研究	E	引間俊雄	継続
06-009	N	英語を学習する船員の国際性と多文化性の教育に関する研究	EFG	田中賢司	継続
07-001-1	N	船舶接岸速度計の性能要件に関する研究	A	新井康夫	新規
07-002-1	E	自動ボイラ制御の教育訓練用補助ボイラシミュレータの研究	E	伊丹良治	新規
07-003-1	N	操船におけるA I S情報の活用に関する研究	A	堀晶彦	新規
07-004-1	E	閉水域における船舶運航に係わる海洋環境に関する研究	D	藤谷達也	新規
07-005-1	E	ディーゼル主機遠隔操縦シミュレータを用いた訓練手法の研究	E	佐藤圭司	新規
07-006-1	N	海難の統計的特性に基づく事故評価に関する基礎研究-	C	長畑司	新規
07-007-1	E	船舶管理システムの効果的教育手法の研究	E	城戸八郎	新規

2.2 外部資金による産学連携研究

研究分野における海技大学校と海事産業界との連携・協力は資金の面も含めて、今後ますます発展させる必要がある。本校では外部資金導入による受託研究及び共同研究を積極的に推進している。

19年度は次の受託研究3件、共同研究1件が行われた。

【受託研究】

研究題目：超音波プローブによる画像ソフトの開発

研究担当者：航海科 新井康夫教授

期間：平成19年5月20日～平成20年3月31日

受託先：日本測器株式会社 株式会社神戸工業試験場

経費：¥ 525,000

研究題目：マイクロアクチュエータスキャニングソナーの開発

研究担当者：航海科 新井康夫教授

受託先：株式会社神戸工業試験場

期間：平成19年12月19日～平成20年3月30日

経費：¥ 1,890,000

研究題目：船舶自動識別装置（AIS）の信頼性向上のための調査研究

研究担当者：航海科 新井康夫教授、堀晶彦教授、奥田成幸教授、藤江晋平助教授

受託先：国土交通省海事局

期間：平成20年1月16日～平成20年3月28日

経費：¥ 2,417,746

【共同研究】

研究題目：多視点での視界再現機構の基礎的研究

主研究担当者：航海科 新井康夫教授

共同研究機関：(株)海洋総合技研

期間：平成18年6月20日～平成20年3月末日

経費：¥ 750,000

表 - 2 に 19 年度までの研究に関する外部資金獲得状況を示す。

表 - 2 外部資金獲得状況

	研究題目	連携先	契約金額
平成19年度	超音波プローブによる画像ソフトの開発	日本測器株式会社	525,000
	マイクロアクチュエータスキャニングソナーの開発	(株)神戸工業試験場	1,890,000
	船舶自動識別装置(AIS)の信頼性向上のための調査研究	国土交通省海事局	2,417,746
	多視点での視界再現機構の基礎研究	(株)海洋総合技研	750,000
		小計	5,582,745
平成18年度	平成18年度水先区・強制水先区に関する調査	(社)日本パイロット協会	10,854,900
	次世代型接岸速度計に関する調査研究	古野電気(株)	1,050,000
	多視点での視界再現機構の基礎研究	(株)海洋総合技研	750,000
		小計	12,654,900
平成17年度	制限水域における操船に関する研究	内海水先人会	624,502
	制限水域における操船に関する研究2	内海水先人会	267,000
	小型船舶自動拡散型消火器の実践保存試験	テレサイトテック(株)	40,000
	レーダ映像発生アルゴリズムの開発	(株)海洋総合技研	600,000
		小計	1,531,502
平成16年度	制限水域における操船に関する研究	内海水先人会	4,000,000
	制限水域における操船に関する研究2	内海水先人会	1,800,000
	太陽光発電システムの性能評価調査研究	(株)MTI	260,000
	レーダ映像発生アルゴリズムの開発	(株)海洋総合技研	520,000
	小型船舶自動拡散型消火器の実践保存試験	テレサイトテック(株)	80,000
		小計	6,660,000

2.3 その他の共同研究

海技大学校が単独で行う研究に加えて、多くの研究テーマは他の研究機関に所属する研究者と共同で実施し、研究活動の活性化が図られた。表-2 - 2 に一般研究で海技大学校の職員以外の共同研究者が所属する機関名と研究テーマ件数を示す。

表-2 - 2 共同研究者の所属機関

	分類と機関名称	テーマ件数
教育機関	神戸大学海事科学部	2
	岡山大学理学部	1
	大島商船高専	1
	広島商船高専	1
	茨城大学	1
企 業	日立造船	1

3 予算の使用実績

限られた予算の中で計画した研究による効果的な成果を得るために、テーマごとに見込まれる発表成果のレベルを表-3 に示す通り分類し、同表に示す予算限度額以内で必要経費

の申請を行い、さらに海大全体の予算計画で提示された研究費に収まるように修正しテーマ別予算配分が決定された。19年度当初は各申請の約2割の減額になった。表-4 予算配分に対し、予算使用実績割合を示す。

表-3 テーマ当り予算要求限度額

発表レベル	説明	予算限度額(1テーマ当り)
1	査読付学会誌論文発表	80万円以下
2	国際学会講演発表	70万円以下
3	国内学会講演発表	60万円以下
4	海技大学校研究報告	40万円以下

注) 論文発表で1st著者以外は全てレベル4として扱う

表 - 4 平成19年度 重点研究及び一般研究予算実績

研究番号		代表者	予算使用率
A06-001	船舶運航におけるOJTに関する研究	航海科長	93%
A06-002	SMS・ETM船員教育訓練の研究	機関科長	92%
05-004-2	船用機関士の手続き的知識獲得に関する研究	池西憲治	100%
05-005-2	船用機関士に対する効果的なチーム訓練方法に関する研究	近藤宏一	109%
06-001	GPSマルチパス波を応用した計測に関する研究	奥田成幸	115%
06-002	救命いかだのぎ装品の有効性に関する実験的研究	山本一誠	76%
06-003	LNG船の水処理システムの研究	伊丹良治	90%
06-006	船用クレーンのケーブル配置に関する研究	前田潔	78%
06-008	将来の日本海事教育システムについての研究	引間俊雄	86%
06-009	英語を学習する船員の国際性と多文化性の教育に関する研究	田中賢司	100%
07-001-1	船舶接岸速度計の性能要件に関する研究	新井康夫	93%
07-002-1	自動ボイラ制御の教育訓練用補助ボイラシミュレータの研究	伊丹良治	92%
07-003-1	操船におけるAIS情報の活用に関する研究	堀晶彦	100%
07-004-1	閉水域における船舶運航に係わる海洋環境に関する研究	藤谷達也	100%
07-005-1	ディーゼル主機遠隔操縦シミュレータを用いた訓練手法の研究	佐藤圭司	99%
07-006-1	海難の統計的特性に基づく事故評価に関する基礎研究	長畑司	98%
07-007-1	船舶管理システムの効果的教育手法の研究	城戸八郎	103%

表 - 5 に、 予算使用率別のテーマ件数を示す。

表- 5 予算使用率別テーマ件数

予算使用率	件数
100%超 120%以下	2
80%超 100%以下	13
60%超 80%以下	2
60%以下	0
合計	17

2.4 研究成果の発表予定と実績

研究成果はそれぞれの研究者が所属する学会等の論文誌、講演会等で発表された。その内訳を表- 6 に示す。同表には研究計画書に記載された発表予定についても記載した。個々の発表について研究成果の内容(要旨)とともに海技大学校のホームページで公開した。

表 - 6 平成19年度研究発表実績

研究番号	分類	研究テーマ名(一部省略)	代表者	終了/継続	計画	実績
A06-001	重点研究	船舶運航におけるOJTに関する研究	航海科長	継続		L4 L4 L4 L4
A06-002	重点研究	SMS・ETM船員教育訓練の研究	機関科長	継続		
05-004-2	E	船用機関士の手続き的知識獲得に関する研究	池西憲治	終了	L2 L3	L3 L3
05-005-2	E	船用機関士に対する効果的なチーム訓練方法に関する研究	近藤宏一	終了	L2 L3	L2 L2 L4
06-001	A	GPSマルチパス波を応用した計測に関する研究	奥田成幸	継続	L1 L2	L1
06-002	C	救命いかだのぎ装品の有効性に関する実験的研究	山本一誠	継続		
06-003	B	LNG船の水処理システムの研究	伊丹良治	継続	L3	L4 L4
06-006	B	船用クレーンのケーブル配置に関する研究	前田潔	継続	L3	
06-008	E	将来の日本海事教育システムについての研究	引間俊雄	継続	L2 L3	
06-009	EFG	英語を子音する船員の国際化と多文化共生の教育に関する研究	田中賢司	継続	L1	L2 L4
07-001-1	A	船舶接岸速度計の性能要件に関する研究	新井康夫	新規	L1	L1
07-002-1	E	自動ボイラ制御の教育訓練用補助ボイラシミュレータの研究	伊丹良治	新規	L2	L2 L3
07-003-1	A	操船におけるAIS情報の活用に関する研究	堀晶彦	新規	L1	L1
07-004-1	D	閉水域における船舶重航に係わる海洋環境に関する研究	藤谷達也	新規	L3	L2 L3
07-005-1	E	ディーゼル主機遠隔操縦シミュレータを用いた訓練手法の研究	佐藤圭司	新規	L2	L2
07-006-1	C	海難の統計的特性に基づく事故評価に関する基礎研究	長畑司	新規	L4	L4
07-007-1	E	船舶管理システムの効果的教育手法の研究	城戸八郎	新規	L2	L2

次に表 6 - 2 に研究数の内訳を記す。

	レベル	計画	発表実績
査読付き学術論文	L1	5	2
国際会議発表	L2	7	7
国内学会発表	L3	6	4
研究報告	L4	1	9

3. 研究業務の事後評価

3.1 自己評価および教室評価

各テーマの研究代表者から研究報告書により自己評価が以下のフォームに基づいて提出された。

(1)及び(2)については、次の4段階評価を行い、評価C又はDの場合にはその理由も記述する。

(1) 教官研究テーマ申請書に記載された実施項目に対する進捗度	計画した研究実施項目に対する進ちょく状況を評点*で自己採点する。評点がC又はDの場合にはその理由を記載する。
(2) 教官研究テーマ申請書に記載された研究成果の発表計画に対する実績	計画した成果発表に対して実際に行った発表の割合を(1)と同じ評点で自己採点する。C又はDの場合にはその理由を記載する。
(3) 船員教育・船舶運航技術の向上への寄与	研究成果が船員教育及び船舶運航技術の向上のために、どのように、どれくらい寄与したか、又は貢献する可能性について記述する。
(4) 研究成果の船員教育への反映	研究成果、研究の過程で得られた知識、技術、ノウハウ等が、どのように海大での授業、実習など、学生の教育に反映された、又は利用されたのか、若しくはその可能性について記述する。
(5) 予算計画の妥当性	研究業績の予算使用実績(%)が115%を超えた場合、及び65%未満の場合には、計画と実績が食い違った理由を記載する。

A:計画した実施項目全て、または計画以上の項目を完了した

B:計画した実施項目の2/3以上を完了した

C:計画した実施項目の1/3以上を完了した

D:計画した実施項目の1/3に達しなかった

(3)及び(4)は記述する(A,B,C,Dの記入は必要ない)

(5)は予算に対する使用額が65%未満または115%を超える場合に、その理由を記述する。それ以外は記入の必要なし。

また、教室評価は以下に示すフォームにより、研究者本人、研究者が所属する教室の科長及び同教室の研究管理委員会委員の三者が協議の上、3段階(A、B、C)の評点がつけられた。

評価項目	評点
------	----

(1) 研究者本人の自己評価の内容が妥当であるか	
(2) 海大で行う研究としてふさわしいものであるのかどうか	
(3) 研究内容が船員教育・船舶運航技術の向上のために貢献しているのか(将来も含めて)	
(4) 予算が有効活用されたか	
(5) 海大の設備が有効活用されているのか	
(6) 研究成果が海大での授業等、教育面に反映されているか(将来も含めて)	
(7) 研究成果の発表等をとおして社会に貢献しているか(将来も含めて)	

* A、B、C はそれぞれの項目に相当する 3 段階評価(以下を参考に記入する)

(1) A:ほとんどの自己評価の項目について妥当である、B:おおむね妥当である、C:やや妥当とはいえない

(2) A:海大が行う研究として極めて適切なテーマである、B:おおむね適当である、C:指針で示す範囲の研究であるがやや適合しない面がある。

(3) A:極めて貢献している、B:おおむね貢献している、C:工夫次第では貢献できる。

(4) A:予算要求見積もりが適切であり、かつ使用金額に対して成果が大きい、B:予算見積もりにやや不適切又は使用した金額に対して成果がやや少ない、C:予算見積もりがやや不適切でかつ使用金額に対して成果がやや少ない。

(5) A:海大の設備等が非常によく活用された研究である、B:おおむね活用された研究である、C:あまり活用された研究とは言えない。

(6) A:研究成果が授業、実習等を通して学生の教育によく反映された(される)研究である、B:おおむね反映された(される)研究である、C:工夫次第では反映される研究である。

(7) A:成果を学会等の発表を通して海運界等の社会に非常に貢献した研究である。B:今後の成果が貢献する可能性が十分にある研究である、C:工夫次第では貢献する研究である。

以下の表-7 に研究者本人評価(記述式を除く)と教室評価結果の集計表を示す。

表7 教室評価結果

研究番号	研究テーマ名(一部省略)	代表者	自己評価		教室評価						
			進捗度	発表実績	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)
A06-001	船舶動向におけるOJTに関する研究	航研科長	B	B	A	A	A	A	A	A	A
A06-002	SMS・ETM船員教育訓練の研究	機研科長	B	B	A	A	A	A	A	A	B
05-004-2	船用機関士の手続き的知識習得に関する研究	池田嘉台	A	B	A	A	A	A	A	A	A
05-005-2	船用機関士に対する効果的なチーム訓練方法に関する研究	近藤宏一	A	A	A	A	A	A	A	A	A
06-001	GPSマルチパス波を応用した定位に関する研究	奥田孝	A	A	A	A	A	A	A	A	A
06-002	救命用救命装置の有効性に関する実証研究	山本一誠	B	D	A	A	A	B	A	A	A
06-003	LNG船の水処理システムの研究	伊丹良台	A	A	A	A	A	A	A	A	A
06-006	船用クレーンのケーブル配置に関する研究	前田繁	B	B	A	A	A	A	A	A	B
06-008	将来の日本海事教育システムについての研究	引間雄雄	B	B	A	A	A	A	A	A	B
06-009	英語を学習する船員の国際性と多文化性の教育に関する研究	田中賢司	A	A	A	A	A	A	A	A	A
07-001-1	船舶保安計画の性能要件に関する研究	新井康夫	A	A	A	A	A	A	A	A	A
07-002-1	自重ガイダンスの教育訓練用軌道ガイダンスシミュレータの研究	伊丹良台	A	A	A	A	A	A	A	A	A
07-003-1	操船におけるAIシミュレーションの活用に関する研究	堀田彦彦	A	A	A	A	A	A	A	A	A
07-004-1	閉水域における船舶動向に係る海象環境に関する研究	藤谷重也	A	A	A	A	A	A	A	A	A
07-005-1	ディーゼル機関駆動シミュレータを用いた訓練方法の研究	佐藤圭司	B	B	B	A	A	A	A	A	A
07-006-1	海難の発生防止に基づく事故原因に関する基礎研究	長岡司	A	A	A	A	A	A	A	A	A
07-007-1	船舶管理システムの効果的教習方法の研究	城戸一郎	A	A	A	A	A	A	A	A	A

3.2 全体評価

3.2.1 組織的な研究計画の策定が行われたか

平成19年度研究業務は、年度当初に作成された「平成19年度海技大学校研究計画書」に基づき実施されているが、同計画書は前年度末に研究テーマを募り、研究者の所属する各教室でテーマの重複等のチェックを行った上、研究管理委員会で予算等の調整を行い原案を作成し教官会議での審議・了承を経て理事会で承認されたものである。手続き的には以下の規程又は指針に基づいて行われたものである。

- (1) 独立行政法人海技大学校研究管理委員会規程
- (2) 独立行政法人海技大学校研究業務規程
- (3) 海技大学校における組織的研究のあり方等についての指針

3.2.2 共同研究を行い研究活動が活性化されたか

1.2 共同研究の項で示したように19年度は他機関との正式契約による共同研究が2件行われた。また、契約は取り結んでいないが他大学との共同研究5件、企業との共同研究1件が行われた。

3.2.3 研究に対する自己評価体制が構築され、かつ自己評価が適切に行われたか

研究業務の評価について、「海技大学校における組織的研究のあり方等についての指針」及び「独立行政法人海技大学校研究業務評価要領」に基づき、(1)研究者本人による自己評価、(2)教室レベルで行う教室評価、(3)研究管理委員会が行う全体評価の3段階で、研究計画書に記載された研究の目的、実施項目、予算及び期待される効果に対して、実際に行った研究によるこれらの達成度を客観的にかつ公平に海技大学校が自己(内部)評価する体制を確立した。本報告書はこれをまとめたものである。

また、平成14年度から開始された重点研究については、その計画段階から事前評価を行う体制を確立している。

3.2.4 研究成果の船員教育への反映は行われたか

研究活動を通して研究者本人が船舶運航の高度な技術、安全で効率的な運航のための知識を深めることにより、それぞれの教育業務(授業、実習等)の中で、学生の知識及び技術向上に寄与している。

3.2.5 成果の発表(論文、学会発表)実績が目標を達成したか

平成19年度に計画した成果の発表目標(年次計画:5件程度の論文発表あるいは国際会議発表と5件程度の国内学会発表)に対して、2.4の「研究成果の発表実績」の表-6に示す通り、合計23件の成果発表を行った。これらのうち、学術誌論文の2件及び国際会議発表の8件の合計10件が目標で挙げた論文発表に相当し、目標は達せられた。

3.2.6 研究成果をHP等で公表したか

インターネット上で公開している「海技大学校ホームページ(<http://www.mtc.ac.jp>)」の「研究計画/成果」のページ上の「平成19年度研究成果発表リスト」として以下の項目について公開している。

- (1)表題(和文・英文)
- (2)著者
- (3)発表学会誌名、発表学会名
- (4)概要

なお、これらのリストを見た外部の研究者又は一般の人から論文本体の閲覧の要望があれば、これに応えられる体制をとっている。

4. その他

4 . 1 学位の取得

平成 1 9 年度は次の 1 名が学位を取得した。

奥田成幸 博士（工学） 平成 2 0 年 3 月

「GPS 衛星信号の海面による反射特性とその応用」

これに関する研究成果も他の研究成果と併せて示す。

説明

研究担当者欄の○印は研究の代表者を示す。

[研究実績欄]

(4) の発表実績欄のレベルを示す記号は以下の分類による

L1	学位論文、査読付学会論文誌発表
L2	国際学会講演発表
L3	国内学会講演発表
L4	海技大学校研究報告
(L4)	同上第 45 に掲載予定

[自己評価]

(1)及び(2)については、次の 4 段階評価を行い、評価 C 及び D の場合にはその理由も記述する。

評価点	評価
A	計画した実施項目全て、または計画以上の項目を完了した
B	計画した実施項目の 2/3 以上を完了した
C	計画した実施項目の 1/3 以上を完了した
D	計画した実施項目の 1/3 に達しなかった

(3)及び(4)は記述する(A,B,C,D の記入は必要ない)

(5)は予算に対する使用額が 65%未満または 115%を超える場合に、その理由を記述する。それ以外は記入の必要なし。

[教室評価]

A、B、C はそれぞれの項目に相当する 3 段階評価(以下を参考に記入する)

(8) A:ほとんどの自己評価の項目について妥当である、B:おおむね妥当である、C:やや妥当とはいえない

(9) A:海大が行う研究として極めて適切なテーマである、B:おおむね適当である、C:指針で示す範囲の研究であるがやや適合しない面がある。

(10) A:極めて貢献している、B:おおむね貢献している、C:工夫次第では貢献できる。

(11) A:予算要求見積もりが適切であり、かつ使用金額に対して成果が大きい、B:予算見積もりにやや不適切又は使用した金額に対して成果がやや少ない、C:予算見積もりがやや不適切でかつ使用金額に対して成果がやや少ない。

(12) A:海大の設備等が非常によく活用された研究である、B:おおむね活用された研究である、C:あまり活用された研究とは言えない。

(13) A:研究成果が授業、実習等を通して学生の教育によく反映された(される)研究である、B:おおむね反映された(される)研究である、C:工夫次第では反映される研究である。

A:成果を学会等の発表を通して海運界等の社会に非常に貢献した研究である。B:今後の成果が貢献する可能性が十分にある研究である、C:工夫次第では貢献する研究である。

19年度研究成果一覧を示す。

(注) 報告書提出後に報告を受けたものも含む。

* 査読付き論文・著書

- 1) 辰己公朗、久保田崇、藤井英信、河口信義、**新井康夫** (2008) アンケート調査に基づく船舶離着岸時における速力情報に関する研究 日本航海学会論文集 118 31-38)
- 2) **Akihiko Hori**, Effective Onboard Application on UAIS Information, Asia Navigation Conference 2007 (Tokyo)
- 3) **川崎真人、田中賢司、杉田和己** (2008) 新版 英和対訳 IMO 標準海事通信用語集 国土交通省海事局監修 成山堂

* 学位論文

- 1) **奥田成幸** (2008) GPSマルチパルス波を応用した計測に関する研究 神戸大学博士論文

* 国際会議発表

- 1) **Kenji Tanaka** (2007) Conrad and Noteworthy Japanese The Joseph Conrad Society UK Jul. 07 (London)
- 2) **Keiji Sato, Masayuki Ohnishi** (2007) Training Method on Main Engine Remote Control Simulator System The 8th International Conference on Engine Room Simulator Nov. 07 (Manila)
- 3) **KONDO Koichi** A STUDY ON LEARNING MATERIALS FOR EFFECTIVE EDUCATIONAL TRAINING IN SIMULATED ENGINE ROOM The 8th International Conference on Engine Room Simulator Nov. 07 (Manila)
- 4) **Yoshiharu Itami** Training Method using Simulator for PLC System in Auxiliary Boiler The 8th International Conference on Engine Room Simulator Nov. 07 (Manila)
- 5) Noboru Nakamura, **Tatsuya Fujitani**, Osamu Okano CHLORINE ISOTOPIC FRACTIONATIONS IN THE EARLY SOLAR SYSTEM: CORRELATION WITH OXYGEN AND STABLE CHROMIUM ISOTOPE ANOMALIES IN CHONDRITES Workshop on The Chronology of Meteorites and the Early Solar System Nov. 07 (Kauai)
- 6) **Hachiro Kido**, The study of the effective education technique of ship management system and the present conditions of the Japanese fleet management, Pacific 2008 International Maritime Conference

* 国内講演

- 1) 伊丹良治、LNG 船 10MPa 蒸気タービンプラントの水質管理について 第 76 回日本マリンエンジニアリング学術講演会 07 年 5 年 (東京海洋大)
- 2) 池西憲治、船用機関士の手続き的知識獲得に関する研究 日本教育工学会 第 23 回全国大会 07 年 9 月 (早大)
- 3) 藤谷達也、中村昇、岡野、木村眞、TIMS による塩素同位体分析の現状とこれから、2007 年度日本地球化学会第 54 回年会 07 年 9 月 (岡山大)
- 4) 池西憲治、船用機関士の手続き的知識獲得に関する研究 第 77 回マリンエンジニアリング学術講演会 07 年 10 月 (神戸大)
- 5) 田中賢司、英語を学習する船員の国際性と多文化性の教育に関する一研究 —ドッガー・バンク事件に関するコンラッドの著作について— 日本英文学会 関西支部 第 2 回大会 07 年 12 月 (大阪)

* 研究報告・技術資料等

- 1) 伊丹良治、他、年鑑 2006 年におけるマリンエンジニアリング技術の進歩 (2007)、日本マリンエンジニアリング学会誌 第 42 号、3-51.
- 2) 伊丹良治、技術資料 LNG 船 10MPa 蒸気タービンプラントの水質管理について (2007) 日本マリンエンジニアリング学会誌第 42 巻 6:15-18
- 3) 長畑司、海難船舶乗船者生存に関する自己完結性の一評価法と要救助海難に見るその傾向と特徴、海技大学校研究報告 第 51 号、1-22.
- 4) 田中賢司、コンラッドの日本への関心、海技大学校研究報告 第 51 号、23-42.
- 5) 西村常雄、増田憲司、岩崎裕行、品川史子、BRM 訓練に見るフェリー乗組員の行動と評価に関する考察海技大学校研究報告 第 51 号、43-48.
- 6) 北川哲男、浅木健司、山本一誠、田口幸雄、BRM の観点から見た航行の安全性向上過程に関する一考察- カーフェリーの航行実態調査の検証 -、海技大学校研究報告 第 51 号、49-62.
- 7) 田口幸雄、浅木健司、北川哲男、西村常雄、カーフェリーの航行安全チェックリストと危険度評価に関する提案 海技大学校研究報告 第 51 号、63-76.
- 8) 品川史子、岩元省吾、北川哲男、田口幸雄、増田憲司、海上実務経験の多寡による操船技能評価の比較に関する調査・研究 - 操船シミュレーションにおける自己評価と第三者評価について -、海技大学校研究報告 第 51 号、77-86.

平成20年度専門分野委員派遣実績

委 嘱 先	委 員 会 名 等	氏 名
財団法人 海技振興センター	STW調査検討に関する専門委員会委員	引間 俊雄
	海技ネットワークの運営に関する専門委員会委員	岩瀬 潔
	水先人養成支援事業検討委員会委員	浅木 健司
社団法人 神戸海難防止研究会	理事	大西 正幸
	常任委員	岩瀬 潔
	常任委員	新井 康夫
	常任委員	城戸 八郎
	スーパー中枢港湾「阪神港」における船舶の航行安全対策委員 会委員	岩瀬 潔
	明石海峡航路東口における航行安全対策検討委員会委員	岩瀬 潔
	大阪港新島建設等工事航行安全対策調査委員会委員	堀 晶彦
	阪南港における地震津波による係留船舶への影響評価に関する調査委員会委員	城戸 八郎
	姫路LNG共同基地LNG船型大型化に伴う航行安全対策等検討委員会委員	増田 憲司
	タグシミュレータ実験等に基づく操船支援タグボートの運用等調査委員会委員長	浅木 健司
	タグシミュレータ実験等に基づく操船支援タグボートの運用等調査委員会委員	増田 憲司
	堺泉北港大津航路工事に伴う船舶航行安全対策調査委員会委員	岩瀬 潔
	新島事業休止に伴う船舶航行安全対策調査関係委員会委員	堀 晶彦
社団法人 日本航海学会	理事(会長)	新井 康夫
	研究委員会委員	奥田 成幸
	編集委員会委員	増田 憲司
	編集委員会委員	岩瀬 潔
	論文審査委員会委員	浅木 憲司
	論文審査委員会委員	奥田 成幸
	論文審査委員会委員	増田 憲司
	論文審査委員会委員	堀 晶彦
	航法システム研究会会長	奥田 成幸
社団法人 日本マリンエンジニアリング学会	論文審査委員会委員	伊丹 良治
	国際交流委員会委員	前田 潔
	学会賞受賞審査委員会委員	前田 潔
	研究委員会会議委員	角 和芳
	エネルギーシステム研究委員会	伊丹 良治
社団法人 瀬戸内海海上安全協会	専門委員	新井 康夫
	専門委員	岩瀬 潔
	専門委員	佐藤 尚登
海洋政策研究財団	WMU友の会ジャパンニューズレター編集委員会委員	引間 俊雄
レスキューロボットコンテスト実行委員会	実行委員会委員	前田 潔
船舶料理士登録試験委員会	委員	松田 賢栄
計		延べ36名

資料 17

平成20年度 発表論文一覧表

整理 番号	発表タイトル	発表代表者	発表学会・論文誌名	論文誌 発表 (L1)	国際会 議発表 (L2)	国内学 会発表 (L3)	海大研 究報告 発表等 (L4)
001	海難見積価格を用いた船舶の自己完結性と支援救助性に関する評価	長畑 司	日本航海学会論文集 第119号	1			
002	An Experimental Research On Eating Pattern On Survival Craft	山本一誠	Proceedings of IMLA2008 "Safety, Security and Quality Objectives of MET Institutions" pp.575-583		1		
003	太陽光発電の停泊中の船舶への利用に関する基礎研究	角 和芳	第78回(平成20年)マリンエンジニアリング学術講演会講演論文集 pp.47~49			1	
004	Study on Application of UAIS Information Using Directional Antenna	堀 晶彦	Asia Navigation Conference 2008, Proceedings pp.208-217	1			
005	Study on Application of AIS Information for Ship Handling	堀 晶彦	8 th Asian Conference on Marine Simulator and Simulation Research, Proceedings pp.187-190		1		
006	TIMS による微小試料中の塩素同位体分析	藤谷達也	2008年度日本地球化学会第55回年会講演要旨集 pp.172			1	
007	2005年におけるマリンエンジニアリング技術の進歩	伊丹良治	日本マリンエンジニアリング学会誌 Ser.469 Vol.43 No4 2008 JUL. pp.27頁 ~29			1	
008	内航船の船体汚損と入渠時機に関する一考察	伊丹良治	第78回マリンエンジニアリング学術講演会講演論文集 pp.5-6			1	

009	PC版機関室シミュレータの操作マニュアルの改善に関する研究	池西憲治	第78回マリンエンジニアリング学術講演会講演論文集 pp.115-116			1	
010	PC版機関室シミュレータの基本操作エラーに関する一考察	池西憲治	日本教育工学会 第24回全国大会講演論文集 pp.341-342			1	
011	機関室シミュレータとは？模擬機関室におけるシミュレータ訓練とは？	近藤宏一	第119回日本航海学会操船シミュレータ研究会（依頼講演）				1
012	GPS アンテナアレーによる波浪情報収集の試み	奥田成幸	日本船舶海洋工学会講演会論文集 平成20年11月 第7K号 pp.79 ~ 80			1	
013	Wave Measurement System Using GPS Software Receiver and Arrayed Antenna	奥田成幸	Proceedings of International Technical Meeting 2009, The Institute of Navigation (in press)		1		
014	Simulation Study on Reliability of Ship's Velocity for Docking Maneuvering	新井康夫	Proceedings of 8th ASIAN CONFERENCE on MARINE SIMULATOR and SIMULATION RESEARCH, pp.217-221		1		
015	GPSによる3次元精密測位情報と評価実験	新井康夫	日本航海学会論文集 第119号 pp.239 ~ 248	1			
016	3D-CGを用いたエンジニアリング教育教材の開発に関する研究	野尻良彦	立体視テクノロジー - 次世代立体表示技術の最前線 - (ISBN978-4-86043-155-6) NTS INC 第3編 第5章 第2節				1
017	CHLORINE ISOTOPES AS A POSSIBLE TRACER OF FLUID/BIO-ACTIVITIES ON MARS AND A PROGRESS REPORT ON CHLORINE ISOTOPE ANALYSIS BY TIMS	藤谷達也	40th Lunar and Planetary Science Conference, March 24, 2009 (Texas)		1		
合 計 件 数				3	5	7	2

監 査 報 告 書

1 被監査部門

国立館山海上技術学校

2 監査区分

業務監査

3 監査の種類

定期監査

4 監査内容

独立行政法人海技教育機構監事監査実施細則（平成18年海技教育機構達第53号）第2条及び独立行政法人海技教育機構スクールビュー実施規程（平成18年海技教育機構規程第48号）第6条第1項第3号～第5号に規定する事項

5 監査の方法

職員に対する質問、施設の視察及び諸帳簿のチェック等により実施

6 監査の対象期間

平成19年4月1日から監査日まで

7 監査日

平成20年11月21日（金）

8 監査担当者の氏名

青 木 光 俊（監事）

松 下 宗 一（監事）

9 監査の概要

会計関係については、契約決議書・支出依頼票、現金出納簿、物品購入伺、貯金出納簿、検収調書、証明書交付手数料調書、支出済報告書等が、

人事・服務関係については、出勤簿、勤務時間報告書、年次休暇・特別休暇簿、休日の振替等命令簿、時間外勤務等命令簿、旅行命令簿、出張計画・復命書等が、

資産関係については、固定資産台帳及び固定資産減損処理簿等が、

安全管理関係については、消防設備点検結果報告書等が提出され、それらについて監査を行った。

その結果、全般にわたり概ね良好に業務を遂行しているが、次の点について指摘する。

（１）出勤簿の押印漏れがあった。

これは、毎日出勤した際、押印せず何日分かまとめて押印した結果ではないかと推測されるが、好意的に見れば、恒常的な問題ではなく、当日何らかの事情で例外的に押印を忘れたに過ぎないとも解釈できる。

【独立行政法人海技教育機構職員の勤務時間の管理に関する達（平成18年海技教育機構達第13号）第2条 出勤簿（様式第1号）は、所定の場所におき、出勤時間を経過したときは所定の場所より直ちに撤去するものとする。同達第3条 職員は、定刻までに出勤したことを証するため、出勤簿出欠欄の大欄に自ら本人印を押さなければならない。】

（２）旅行命令・依頼簿の用務先欄が空欄になっているものがあった。

原則的には、出張発令にあたり、用務、用務先及び旅行期間等を

確認し、旅行命令者が、旅行命令者の認印欄に押印したうえで、当該旅行者に提示する必要があるが、この一連の手続き及び押印が形骸化している結果ではないかといえる。

【独立行政法人海技教育機構旅費規程（平成18年海技教育機構規程第31号）第4条第1項　～略～　旅行は、理事長又はその委任を受けた者の発する旅行命令又は依頼によって行わなければならない。同規程第4条第3項　～略～　旅行命令（依頼）簿（様式第1号）に、当該旅行に関する事項を記載し、これを当該旅行者に提示しなければならない。　～略～。

独立行政法人海技教育機構旅行命令権の委任に関する達（平成18年海技教育機構達第30号）第2条第1項　～略～　旅行命令は、別表中欄に掲げる者が、それぞれ同表の右欄に掲げる職員に対して発するものとする。同条第2項及び第3項略。】

（3）休日の振替等命令簿に勤務時間の記載が無いものがあつた。

これは、後日まとめて処理していることによる記載漏れ、あるいは、所属長及び勤務時間管理者の印欄への押印が形骸化している結果であるといえる。

なお、振替をするときは、前日までに振替による休日を指定して当該職員に通知する必要があるが、その際の通知は、休日の振替命令簿によることになっているが、この事務手続きが履行されていない可能性もある。

【独立行政法人海技教育機構職員の勤務時間及び休暇等に関する規程（平成18年海技教育機構規程第16号）第4条第1項略　第2項　理事長は、前項の振替をするときは、前日までに振替による休日を指定して当該職員に通知するものとする。

独立行政法人海技教育機構職員の勤務時間及び休暇等に関する細則（平成18年海技教育機構達第12号）第2条　理事長は、～略～　所属する職員に対する権限を委任するものとする。同細則第2条第1号　～略～　本部に所属する職員にあつては事務局長（芦屋

市に勤務する職員。)及び事務局次長(静岡市に勤務する職員。)
同細則第2条第2号　～略～　海上技術学校等及び大学校に属する
職員にあつては校長。　同細則第4条第3項　規程第4条第2項の
通知は、週休日の振替等命令簿(様式第1号)により通知しなければ
ならない。】

- (4) 船舶の定期点検等に関する契約の履行等については、その具体的
内容や業務の進め方が、業者主導で進められているといった感じを
受けるが、これらに要する経費は高額であり、年間予算に占める割
合も高いことから、我が方としても有効なチェック機能を持ちその
妥当性について検証する必要がある。

しかし、この問題は、現場である学校のみに対応では、おのずと
限界がある事から今後、機構として取り組み専門的知識を蓄積し対
処していく事が望ましい。

スクールレビュー実施報告書（抜粋）

実施校名： 国立唐津海上技術学校

実施日： 平成20年 9月 9日（火）

実施者： 理 事 藤 井 照 久

随行者： 情報運用課主幹 澤 田 幸 雄

1. レビューの実施概要

- 8 : 4 0 学校着後から 1 7 : 0 0 にかけて、スケジュール表にしたがって実施した。
- 用意された資料に沿って校長から教育の現状等の説明を受けた。説明内容に応じて教頭、庶務課長、教務課長又は指導課長が同席した。
- 施設設備の視察と授業見学を併せて実施した。
- 1 6 : 0 0 から講評及び学校教職員との懇談会を実施し、各職員との意見交換を行った。

2. 点検結果

項 目	点 検 結 果
(1) 教育の現状聴取及び実施内容	・ 今年度の応募者が減少したことを受けて、中学校訪問の回数増加、新聞広告の拡大、市町村の広報誌への募集記事掲載など、募集活動を強化している。 ・ 生徒の基礎学力向上のため、国語、数学のドリルなどを実施し、優秀者の表彰を行っている。 ・ 四級海技士の口述試験合格率向上のため、月 2 回土曜日の授業を行い、模擬試験を実施している。また三級海技士筆記試験の受験指導に熱心に取り組み、多数の合格者を出している。 ・ 教育機材は古いものが多いが、整備しながら使用している。校内練習船の入渠整備は、これまで入渠していた造船所の倒産のため今年度は別の造船所になったが、費用面等を勘案して今後の入渠先や校内での整備等について検討する必要があるものと思われる。 ・ エイズ予防啓発活動、海岸清掃などのボランティア活動を積極的に行っている。 ・ 昨年度は全校を挙げて佐賀高校総体の運営に協力し、また来年度はレーザーラジアルヨット世界選手権に協力を予定しているなど、地域との連携に力を注いでいる。 ・ 授業見学においては、生徒が教員の問いかけに対して積極的に発言する様子や、小テストなどを行って生徒の集中力を高める工夫を見ることができた。
(2) 教職員への教育指導状況	・ 教育相談研修やパソコン研修など、佐賀県教育センターの各種教員研修に積極的に参加している。

(3) 校舎等の施設、設備、備品等の管理及び整備状況	・校内はよく清掃されており、プランターの花や整備された運動場など、日頃からよく手入れがなされていることが推察できた。 ・職員室前の掲示物は項目毎に整理して掲示しており、他にも求人票の掲示、高校総体の表彰状等の陳列などが、見やすく、見栄えよく展示されていた。
(4) 寮の運営状況	・生徒はよくあいさつができ、礼儀正しく素直で落ち着いた印象を得た。 ・食事の際にも、ものおじせず会話に応じていた。 ・寮内各所はよく清掃されており、ゴミ処理も適切に行われている。

3 . 所見

校内施設はきれいに清掃され、日頃からよく整備されていることがうかがえる。生徒は礼儀正しく素直な印象で、服装、態度ともに問題は感じられず、授業の取り組みも良好であった。

また四級海技士の口述受験対策模擬試験、基礎学力向上のための普通科教員の取り組みなど、教科指導に力を入れており、職員が積極的に研修を受講するなど自己啓発の意識も高い。

募集活動については応募者の急減が懸念されるが、学校として強い危機感を持ち、その強化に取り組んでいる。学校訪問の充実、在校生、卒業生の出身中学校訪問などに加え、地方運輸局と連携して市町村広報誌へ記事を掲載する、サッカー部の活動における地域との協力関係を構築して地元プロサッカーチームサガン鳥栖のオフィシャルホームページに学校リンクバナーを貼る、広告代理店との交渉により費用対効果の高い新聞広告を口之津校と共同で掲載するなど、他校では見られない独自の活動を展開している。

クラブ活動や生徒会活動、ボランティア活動その他地域との連携も盛んであり、これらの活動を通してあらゆる面で高等学校と同等の学校と認識されるよう、全校一丸となって取り組んでいるという意気込みが感じられた。

4．その他必要と認める事項

(1) 聞き取り及び視察における学校側からの要望事項

教員研修

- ・教科指導技術の向上及び各校教員の情報交換のため、かつて行われていた普通科教員研修を再開して欲しいという要望があった。

施設整備

- ・本館、生徒寮及びポンツーンなどの経年劣化、耐震性診断等、施設の中長期的な整備が必要であるという要望があった。
- ・カッターの新替についての要望があった。
- ・生徒寮に冷房を設置して欲しいとの要望があった。

連絡会議の議事要旨

- ・本部から各校への連絡会議議事要旨の送付について、内容が分かるように説明を加えて欲しいとの要望があった。

(2) 懇談会における質疑概要

教材の内燃機関について（理事からの質問）

内燃機関は作動するが、ピストン抜き研修を行うには小さすぎると思うという回答があった。

機関科教材について

内燃機関のカットモデルが古く、生徒に理解させる上で新しいものが欲しい、また児島校の教材で廃棄される予定のものの中に当校で使いたいものがあるので、検討して欲しいという要望があった。

技業棟の建て替えについて

老朽化している技業棟の建て替えについて要望があった。また専修科へ軸足を移す方針に基づいて、施設整備においても専修科校を優先しているのではないかと質問があり、そういうことではないと回答した。

ポンツーンの修繕について

ポンツーンの経年劣化がひどく、修繕又は購入して欲しいとの要望があった。

資料 20

独立行政法人海技教育機構

**登録関係実施調査指摘事項
改善報告書**
(抜 粋)

国立口之津海上技術学校

平成20年12月16日

1. 関係書類

点 検 項 目	点 検 結 果		指摘事項に対する対応
	記号	記 事	
登録関係届出書類			
・ 登録申請		・ 書類はすべてあるが、正式な書類綴りがな い。 ・ 各登録ごとに正式な書類綴りを作成する必要	・ 各登録ごとに正式な書類綴りを作成した
・ 変更届	○		
・ 事務規程変更届	○		
・ 養成実施報告	○		
・ 小型教習実施計画（地方運輸局宛）	○		
修了証明書発行台帳			
・ 免許講習	○		
・ 四級航海		・ タイトルが「修了証明書」と書かれているだ けなので何の修了証明書発行台帳なのか分か りにくい。	・ タイトルを養成施設修了証明書に変更した
・ 四級機関			
・ 小型船舶		・ 21期のタイトルに「5トン限定」の表記が ある（不要）。 ・ 21期の備考欄に「5トン限定解除」の表記 がある（不要）。	・ 5トン限定の表記を二重線で消し、訂正印を押した

記号： ○（良好） （一部に不具合あり） ×（ない、又は重大な不具合あり）

点 検 項 目		点 検 結 果	
		記号	記 事
教育規程関係書類（今年度及び前年度）			
・教務日誌	（前年度）	○	
	（今年度）		・訂正印漏れがある。
・担任教科表	（前年度）	○	
	（今年度）	○	
・時間割表	（前年度）	○	
	（今年度）	○	
・出席簿	（前年度）	○	
	（今年度）	○	
・成績考査に関する表簿（平成16年度）			
" （平成17年度）			21期から24期について点検した。 ・中間試験が綴られていない年がある。
" （平成18年度）			
" （平成19年度）			
" （平成20年度）			
・学籍簿			
" （平成15年度）（17期）			・学籍簿番号が記載されていない。 ・退学者の学籍簿の中に、記載漏れ、押印漏れ
" （平成16年度）（18期）			・訂正印が押印されてないものがある。 ・退学者の学籍簿の中に、出欠や理由が記載さ
" （平成17年度）（19期）			
" （平成18年度）（20期）			・退学者の学籍簿の中に、出欠の記録が記載されてないものがある。
" （平成19年度）（21期）			・期、学籍簿番号が記載されていない。
" 在学中の生徒（22期～24期）			押印漏れがある。 ・訂正印が押印されてないものがある。 ・期、学籍簿番号が記載されない期（22期、23期）がある。 ・退学者の記載内容に不明な点がある。記載漏れがある。
" （乗船実習科）			・訂正印漏れがある。 ・押印漏れがある。
・卒業証書授与原簿			・訂正印漏れがある。
・修了証書授与原簿（乗船実習科）			・訂正印漏れがある。

記号： ○（良好） （一部に不具合あり） ×（ない、又は重

点 検 項 目	点 検 結 果		指摘事項に対する対応
	記号	記 事	
小型教務日誌及び教育記録簿（３年保存）	×	実技の教習時間の記載が規定時間に足りていないところがある。 ...全体を通して （１時間＝６０分として記載すべき）	・規定時間になる様、訂正した
・１７年度卒業生（１９期）		・教務日誌の表紙の「教育実施場所」が未記入である。	・教育実施場所を記入した
・１８年度卒業生（２０期）		・教習記録簿、日誌ともに教習期間と管理者の欄が未記入である。 ・教務日誌の管理者の押印がないところがある。	・教習期間及び管理者の欄を記入し、押印漏れに押印した
・１９年度卒業生（２１期）		・教習記録簿、日誌ともに「５トン限定」と表記されている（必要ない）。 ・教習記録簿、日誌ともに教習期間と管理者の欄が未記入である。 ・教務日誌の管理者の押印がないところがある。	・５トン限定の記載を削除して作成しなおした ・教習期間及び管理者の欄を記入し、押印漏れに押印した
・在籍中の生徒（２２期）		・訂正印漏れがある。 ・鉛筆書きのところがある。	・鉛筆書きをボールペンで書き直し、訂正印漏れに押印した
・在籍中の生徒（２３期）	○		
・在籍中の生徒（２４期）	○		
船舶用日誌			
・公用航海日誌	○		
・船用航海日誌		・船長のサインが抜けているところがある。	・漏れている個所にサインをした
・無線業務日誌	○		
舟艇運航整備記録簿		・押印漏れがある。 ・評価の記載の仕方が違う（「レ」ではなく、「○」か「×」）。 ・燃料の分量が記載されていない。	・押印漏れに押印し、今後評価の記載を○に統一することとする ・燃料の分量についても、今後記入することとする
法令集			
・海事関係法令集	○		
・電波関係法令集	○		
舟艇（船体・書類・法定備品）			
・校内練習船（口洋丸）	○		
・教習艇（シーガル）	○		
・教習艇（ふじ）	○		
・伝馬船（ひばり）	○		
・伝馬船（はやぶさ）	○		
・カッター（１号艇）	○		
・カッター（２号艇）	○		
・カッター（４号艇）		・「海員学校」の表記のままである。	・海上技術学校へ変更予定(手配済み)

記号： ○（良好） （一部に不具合あり） ×（ない、又は重大な不具合あり）